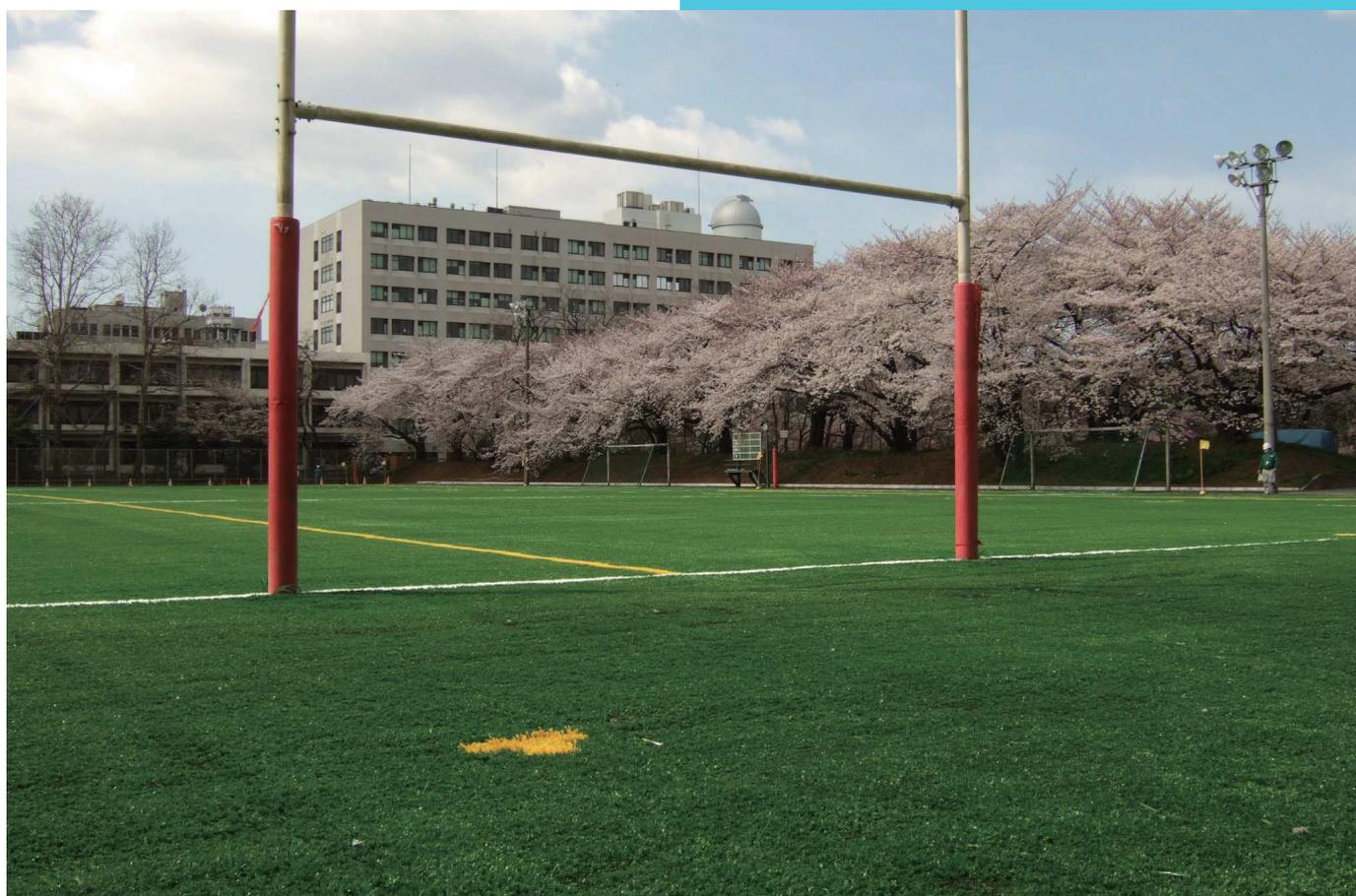


学内広報

for communication across the UT



特別記事：

知っていますか？ 「衛生委員会の活動」

「6月、物の買い方が変わります」

—UT購買サイト・オープン！

知っていますか？「衛生委員会の活動」

平成16年4月より本学が法人化されて大きく変わった点のひとつに、学内の安全と衛生の確保への大学としての積極的な取り組みが挙げられます。このことは教職員、学生、およびその他の研究に取り組む多くの方々にも実感していただいているのではないのでしょうか。ここでは、その取り組みのひとつである「衛生委員会」の内容と具体的な活動をご紹介します。

大学に求められる安全と衛生の確保

東京大学における教育研究業務および教育研究支援業務における安全と衛生の確保に関しては、国立大学が法人化されたことより、新たに労働安全衛生法が適用されることとなりました。国立大学の時代にも、教職員の業務における安全と衛生の確保について、人事院規則10-4およびその他の人事院規則により定められていましたが、法人化に伴う労働安全衛生法の適用により、労働基準監督署の指導・監督のもと、国立大学法人における教育研究業務・支援業務において、より厳格な安全衛生の確保が求められています。さらに、国立大学時代は大学の安全と衛生に関する最高責任者は文部科学大臣であったのに対して、法人化後は、東京大学においては総長がその責務を担うことが明確化されました。このように、官公庁などに依存しない大学として自立した安全衛生の確保への取り組みが、これまで以上に求められています。

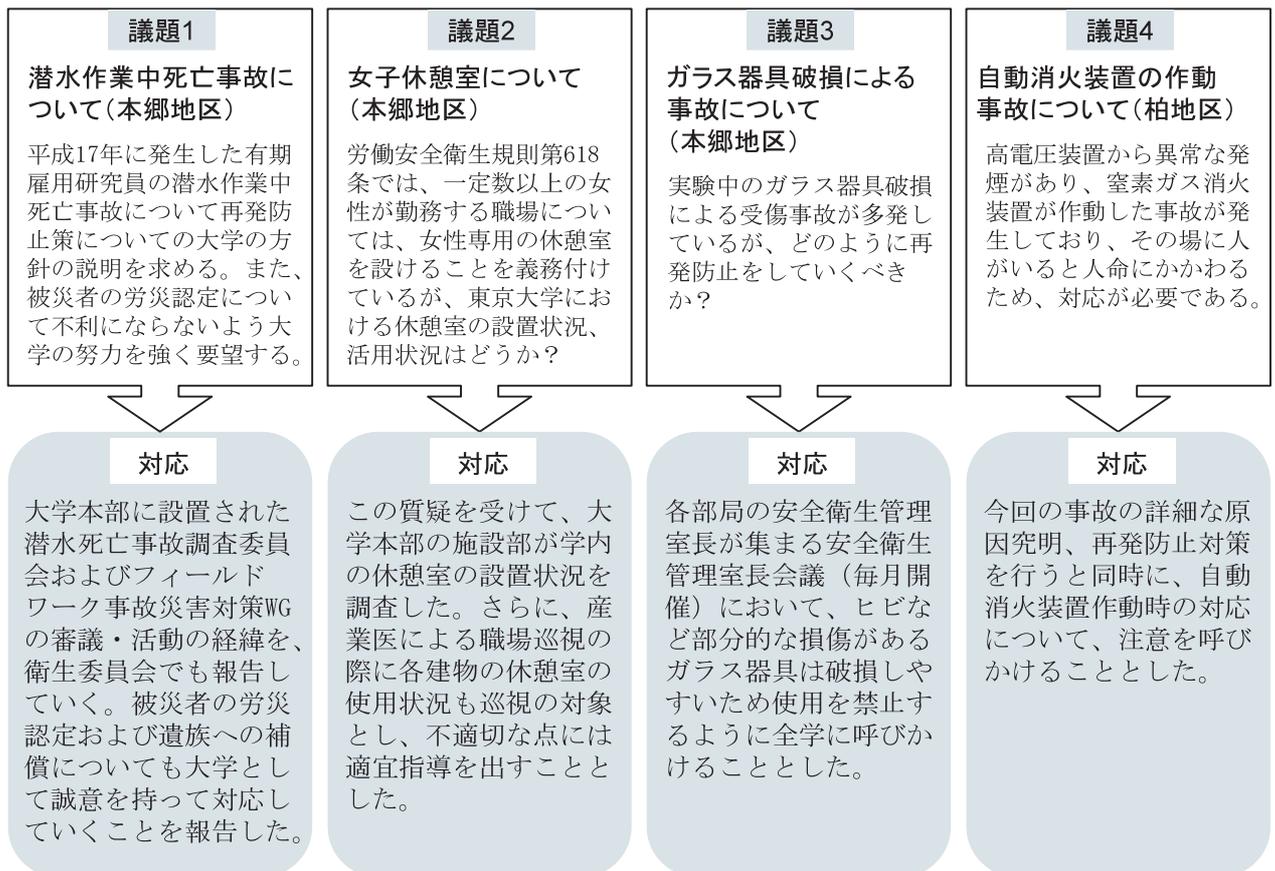
新たな管理組織と衛生委員会の設置

これまで、法人化に伴う東京大学独自の学内における安全衛生管理体制の確立のための取り組みがなされてきており、その結果、大学の本部には環境安全担当理事のもとに環境安全本部（平成17年4月に全学安全衛生管理室から改組）が、また各部局には部局の安全衛生管理室が設けられました。

法人化に際して、労働基準監督署の指示のもと、東京大学の安全衛生管理のための組織は、その地理的条件と規模により15の事業場という管理単位に分けられています（表1）。そして、国立大学時代とは異なる新しい組織として、常時50人以上の教職員が雇用されている事業場には、新たに衛生委員会という組織が設けられることになりました。衛生委員会の設置については、労働安全衛生法第18条で規定されています。

東京大学法人化以降の衛生委員会の活動の事例

以下に、「これまで実際に本学の各事業場の衛生委員会での議題とされた内容」の一部を示します。



学内の危険を未然に防ぐ衛生委員会

衛生委員会は、委員長を除く構成員の半数が、事業場の教職員過半数代表の推薦により選ばれた委員で構成されており、大学で働く教員や職員の安全と衛生の確保に対する意見を大学の安全衛生管理に反映することを大きな目的として設置された組織です。また、衛生委員会の委員には、事業場の衛生管理者や産業医も入っています。各事業場の衛生委員会の委員名簿は、環境安全本部のホームページに載っています。衛生委員会は、平成16年4月以降、所定の事業場において毎月開催され、事業場での事故事例の検討と再発防止対策、化学薬品の管理に関すること、健康診断に関すること、安全衛生に係る施設の問題など、様々な課題が討議されています。

表1 労働安全衛生法に基づく東京大学の事業場

- * 本郷地区
- * 駒場地区
- * 柏地区
- * 医科学研究所
- * 海洋研究所
- * 医学部 附属病院
- * 教育学部 附属中等教育学校
- * 工学系研究科 原子力専攻
- * 農学生命科学研究科 附属演習林 北海道演習林
- 農学生命科学研究科 附属演習林 千葉演習林
- 農学生命科学研究科 附属演習林 秩父演習林
- 農学生命科学研究科 附属演習林 愛知演習林
- 農学生命科学研究科 附属農場
- 農学生命科学研究科 附属牧場
- 理学系研究科 附属植物園

* 印は常時勤務する教職員が50名以上であり、衛生委員会が設置されている事業場

衛生委員会は学内の安全および衛生に関する皆さんのご意見、ご質問を歓迎します

このように、衛生委員会が設置されている事業場では、学内の安全と衛生の向上のための具体的な議論が、毎月、積極的に交わされています。これからも、本学で教育研究に携わっている方々、事務組織などでその支援に携わっている方々から、学内の安全や衛生に関して感じる問題点や疑問を感じる点などを、積極的に提起していただき、衛生委員会での議論に反映していく必要があります。衛生委員会へのご意見、ご質問は、所属される事業場の表記のメールアドレスにお寄せください。なお、東京大学においては、学生の皆さん、研究生・研究員の方々も重要な構成メンバーであります。本学の衛生委員会では、学生、研究生、およびその他の本学の行う事業に従事する方々のご意見、ご質問も歓迎しています。

■衛生委員会のメールアドレス

本郷地区 eisei-hongo@adm.u-tokyo.ac.jp
駒場地区 eisei-komaba@adm.c.u-tokyo.ac.jp
柏地区 eisei-kashiwa@kashiwa-jimu.u-tokyo.ac.jp
医科学研究所 eisei-ims@adm.ims.u-tokyo.ac.jp
海洋研究所 eisei-ori@ori.u-tokyo.ac.jp
医学部 附属病院 eisei-hosp@adm.h.u-tokyo.ac.jp
教育学部 附属中等教育学校 eisei-school@hs.p.u-tokyo.ac.jp
工学系研究科 原子力専攻 eisei-tokai@nuclear.jp
農学生命科学研究科附属演習林 北海道演習林 eisei-hokkai@uf.a.u-tokyo.ac.jp
その他の事業場 eisei-etc@adm.u-tokyo.ac.jp

■東京大学環境安全本部のホームページ
<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/office/anzeneisei/index.html> (大学外部からはご覧になれません)

議題5

安全マニュアルの作成について(駒場地区)

駒場地区としての安全マニュアルを作成する必要があるのではないか?

対応

一部の部局ではすでに安全マニュアルが作成されている。地震などの防災マニュアルは、自治体とも協議して作成する必要があるため、事業場の部局連絡会議で検討することとした。

議題6

ハチ刺され事故について(農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林)

ハチ刺され事故が起こっているが、どのような注意が必要か?

対応

産業医から、ハチ刺されによりアナフィラキシーショックを起こすと命にかかわることがあり、過去にハチに刺されたことのある人に発症する危険性が高く、エピネフリン自己注射薬の携帯について紹介された。

問い合わせ先: 環境安全本部(内線: 21051)

今回は、連載「調達本部です」を拡大版でお送りします。

調達改善の重点分野の中で、最大のボリュームを持つのが「文具・事務用品、OA・パソコン」分野です。これまでも印刷や引っ越しでの調達改善をご報告してきましたが、実は、この最大の分野が未対策でした。その対策として新たに「UT購買サイト」がスタートします。

調達本部
です
[拡大版]



背景

「文具・事務用品、OA・パソコン」分野特有の難しさ

調達本部では、調達改善について、契約規模を集約によって大きくしてスケールメリットを得ること、そしてもうひとつ、新規業者の参入を得ることによって競争原理が機能する環境を整備することを「基本戦略」としました。

印刷、清掃、移転（引越し）、設備の保守管理といった分野では、この基本戦略が比較的スムーズに適用できたといえます。これに対し、「文具・事務用品、OA・パソコン」分野はかなり様子が違います。

まず、包含される調達内容の範囲が非常に広範にわたります。多数のサプライヤによらねば網羅できず、単純なサプライヤー一本化では十分な効果が得られそうにありません。

東京大学特有の難しさ

しかも本学の場合、契約権限は各部局にありますし、部局の中でも実際の発注権限がさらに細かく分かれている場合もみられます。実際に購入される物の品名（例えば、バインダー）は同じでも、規格・品型・品番はまさしく千差万別です。その善し悪しは別として、それが現実です。

このように、分野自体が広範の品目に亘ることと、発注権限の分散という大学らしい事情の相乗作用で、この分野は小量購入の集合になっているわけです。そうした中で、「ともかく東大全体では沢山買っているぞ」という事実を、価格低減にどう結び付けるかが課題でした。

調達品目の広範さ



発注権限の分散



調達改善の困難

UT購買サイトの導入～東大の手作りマーケット～

現状を踏まえ目的を追究した結果たどりついたのがマーケットプレイス方式です。この方式自体は、ネットを通じた「通信販売」を思い浮かべていただくとうまくわかるように、特に珍しいものではありません。ただ、通販のような例は、「売る側（サプライヤ）」が用意したマーケットです。今回のUT購買サイトは、「買う側（バイヤ＝東大）」が独自に、いわば手作りでマーケットを構築したという点が最大の特徴です。

調達改善を目指す分野の品ぞろえに特化し、複数のサプライヤに参加してもらうことでカタログの充実を図るとともに競争原理を機能させる。東大自身がサプライヤを選定して、科研費を含む東大の公費専用マーケットを作ったわけです。

買い方

基本的には通販でのネット発注と同じですが、UT購買サイトへのアクセスは、「比較購買」と「集中購買」に分かれます。

マーケットとしてのUT購買サイトの本旨は「比較購買」の方にあります。各サプライヤのカタログには、商品情報とともに一般向け価格から値引きした「東大向け提供価格」が表示されますので、各カタログを比較のうえ最適の商品を購入できます。なお、カタログ掲載の既製品ではなく、買い手がいくつかの条件を提示して購入することの多いパソコンについては、そのための発注方法も別途に用意されます。

一方、集中購買の方は、すでに本部が1年分まとめて単価契約済みのものです。（注）これらは、価格はすでに決まっていますから、発注をネットを通じて行うということだけです。買い方の統一と、後述するデータ管理が目的です。

（注） 集中購買品・・・ リサイクル・コピー用紙(A3、A4、B4、B5)、重油、液化窒素、ヘリウムガス、アルコール、ドライアイス

UT購買サイト
UT Cobuy Site
—教職員・公費専用—

6月1日オープン
<https://u-tokyo.cobuy.jp/>

私たちが、いいものをお安く、迅速にお届けします

光文堂・幸和商事・ジェイアル東日本商事・清和ビジネス
東京大学消費生活協同組合・日産トレーディング・パピルスカンパニー
ビックカメラ・富士ゼロックス・文華堂・美津野商事
ヤマガタ・リコー販売（五十音順）
システム管理：NTTコミュニケーションズ

お問合せ

財務部調達グループ企画・物品チーム（担当：櫻井・藤原）
TEL（内線）22148・22150
E-Mail kikaku-buppin@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
関連情報：<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/fin/fin3/cobuy/>

比較購買

各カタログを比較のうえ最適の商品を購入できる。



集中購買

すでに単価契約済みのものの発注をネットを通じて行う。買い方の統一と、データ管理が目的。

購入データを使った調達実績の分析



調達改善

電子決済・決算伝票の省略へ



業務改善

購入データの活用

発注の際に打ち込まれたデータは、納品・検取確認後は本学の財務会計システムに直結され、決算整理に生かされます。紙の伝票が必要なくなる一歩手前まで来ているということができます。UT購買サイトは、物品購入の電子決済や、決算伝票の省略といった事務改善の実現にも道をひらくものなのです。

購入実績データは、細かな内容で各サプライヤから本学に還付されてきます。各部局別はもちろん、発注者別、財源別の利用実績、価格低減効果が月次レベルで管理可能となります。これにより調達本部ではあらためて全学的な調達実績の分析を行い、さらなる調達改善に役立てます。データは部局にも渡りますので、価格低減効果の把握はもちろん、さまざまな活用が可能となります。

UT購買サイト運営

比較購買には、公募・選定の結果として13社のサプライヤが参加してスタートします。しかし、これで固定というわけではありません。今後新たな商品分野が加わることも考えられますし、参加を希望する新規サプライヤがあれば、審査のうえ随時加入を認め、競争環境の整備を図ります。また一方、価格面・サービス面での競争の結果、発注実績がふるわないサプライヤに関しては、マーケットから退出してもらうこともあります。

価格競争を通じて、この多岐にわたる分野においても品目ごとの仕様の見直しとある程度の標準化が進むとみられます。また、今後購入データの分析を通じて、比較購買の対象から単価契約による集中購買に変更される品目が出ることも考えられます。

調達改善最大の分野「文具・事務用品、OA・パソコン」のためのUT購買サイト。その価格低減効果は、（科研費、受託研究等は別として）全額各利用部局に帰属し、部局のアクティビティーの新たな財源となるものです。

UT購買サイトは、6月1日オープン。早速「クリック」してみてください。

○本件に関するお問い合わせは以下にお願いいたします。

マーケットプレイス方式購買システム導入プロジェクト

TEL:(内線)22148、22150 (財務部調達グループ企画・物品チーム 櫻井、藤原)
E-Mail: cobuy@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

NEWS

一般ニュース



バリアフリー支援室

「バリアフリー支援室本郷支所」 を開設

バリアフリー支援室は、平成18年4月から、理学部旧1号館135号室に、バリアフリー支援室本郷支所を開設した。

当室は、平成14年10月の準備室発足段階から今日まで、駒場Ⅱ地区に拠点を置き、障害をもった学生・教職員への支援を行ってきたが、ユーザーの学生・教職員の要望等を受け、このたび新たに本郷地区に拠点を開設する運びとなり、これにより、本郷地区の支援室を「バリアフリー支援室本郷支所」、これまでの駒場Ⅱ地区のバリアフリー支援室を「バリアフリー支援室駒場支所」とした。

本郷支所、駒場支所とも、2名の職員を置き、支援のコーディネートを始めとした支援関連業務を連携して行っている。

なお、4月20日（木）には、本年度第1回のバリアフリー支援室会議に引き続き、佐藤室長（理事・副学長）、濱田前室長（理事・副学長）をはじめとするバリアフリー支援室員により、本郷支所において看板掲出およびオープニングセレモニーを開催した。



写真左より：濱田前室長、佐藤室長、各支所メンバー



バリアフリー支援室内の様子

バリアフリー支援室の位置

バリアフリー支援室本郷支所
理学部旧1号館135号室
電話 03-5841-1715（内線21715）
FAX 03-5841-1717（内線21717）

バリアフリー支援室駒場支所
先端科学技術研究センター3号館503号室
電話 03-5452-5067（内線55067）
FAX 03-5452-5068（内線55068）

バリアフリー支援室ホームページ
<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/office/ds/>
バリアフリー支援室メールアドレス
spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp



施設部

施設部保全課に環境整備チームが設置される

本学は障害者雇用の推進の一環として、4月より知的障害者スタッフ10名とコーディネーター3名による整備環境チームを施設部保全課に設置した。

このチームの設置については障害者の雇用の促進等に関する法律の精神に則ったものであり、「すべての事業主は、身体障害者又は知的障害者の雇用に関し、社会連携の理念に基づき、適当な雇用の場を与える共同の責務を有するものであって、進んで身体障害者又は知的障害者の雇い入れに努めなければならない。」という考え方を実践するものである。

環境整備チームスタッフとコーディネーターの業務は本郷キャンパスの清掃等を中心とする構内の環境美化及び本学の生活廃棄物のリサイクル活動である。

環境美化としては落葉のはき掃除及び除草がその内容であり、清掃エリアは本郷キャンパス全般である。特に本学の玄関である赤門・正門・弥生門の周囲と本郷通り（東大側歩道、学生会分館から農正門にかけ）は重点的に清掃を行っている。



正門前清掃の様子

一方、本学の生活廃棄物とリサイクルの再生事業の活動としては赤門・正門・弥生門に設けてある分類ゴミ箱（可燃物・スチール缶・アルミ缶・ペットボトル・吸いがら・不燃物）の回収と分別を毎日実施している。この他に図書の本ICタグの貼り付け等の作業も行っている。



分類ゴミ箱の回収と分別の様子

これらの業務はスタッフとコーディネーターを3班に編成し、効率的に業務を進めているところである。この業務を円滑に遂行していくため安全衛生面、技術面、人間関係を含む生活面においてコーディネーターが細部にわたり親身に補完していくことを心がけている。本学の導入したこの知的障害者雇用の一環としての環境整備チームを、大学構成員全員の協力と援助で育成し発展させていくことが望まれる。

ニュースページ、インフォメーションページへの記事提出要領

「学内広報」は皆さんに送っていただく記事で作られています。下記の要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

- **提出方法**
記事は、各部署の広報担当者をとおして、メールの添付ファイルとしてデータで送付して下さい。
- **提出先**
総務部広報課
E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
- **締切日**
原則として各月第1・3水曜日が原稿の締切日です（配布は翌々週の火曜日）。ただし祝日等により変更となる場合があるため、HPで発行スケジュールを確認して下さい。
- **提出の際の留意事項**
学内専用ホームページに、提出の際の留意事項を掲載していますのでご覧下さい。
- **問い合わせ先**
総務部広報課広報企画チーム
TEL : 03-3811-3393 内線82032
E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



生命科学教育支援ネットワーク

東京大学の生命科学シンポジウム 開催される

3回目を迎えた「東京大学の生命科学」シンポジウムは、天候に恵まれた4月15日（土）、安田講堂で開催された。本学では数多くの部局で大変多岐にわたる生命科学研究が行われているが、その全容を知ることは困難である。本シンポジウムは、本学の研究者自身が本学で行われている幅広い生命科学研究を知るための試みから始まったものである。回を重ねるごとに周知され、今回は記帳者だけでも753名（内学生398名）にのぼり、用意した1300部のリーフレットが足りなくなるという状況からして1000名以上の来聴者があった模様で、安田講堂の2階席も開放することとなった。

例年通り多岐にわたる話題を含むシンポジウムは、細分化された学問領域を俯瞰することの重要性を説く小宮山総長の基調講演で始まり、8研究科5研究所の代表が講演を行った。1分子を扱う研究から複数の分子による機能の形成、1つの細胞を扱う研究から複数の細胞による生命機能の発現、そして個体レベルでの研究、さらには多数の個体により形成される生物社会の研究や環境問題など大変幅の広い研究が紹介された。最後に、今回のシンポジウムを担当した分生研の宮島所長の挨拶で閉会となった。その後、山上会館で懇親会を行ったが、本学の生命科学系研究者が集う唯一の機会であるこの会を楽しみにしているとの声も聞かれ、シンポジウム同様、懇親会も重要な交流の場となった。



シンポジウム会場（安田講堂）内の様子



小宮山総長基調講演の様子

本シンポジウムの主旨は、本学で行われている幅広い生命科学研究を知る機会を提供することであるが、講演のみでは各部局の活動の全容を知ることは不可能である。そこで今回は、各研究科・研究所を紹介するブースを設置してパンフレットなど資料を配布したが、用意した資料が無くなるという盛況ぶりであった。有志の手弁当で始まったシンポジウムであるが、生命科学教育支援ネットワークの設立に伴い組織基盤も確固としたものとなり、今後もこのシンポジウムが本学の生命科学系研究者の情報交換、生命科学を志す若者への情報の提供、そして外部に向けての情報発信の場として発展して行くものと考えている。



安田講堂ロビーでの各部局ブースの様子

最後に、御講演いただいた演者の方々、準備に御尽力いただいたサステナビリティ学支援グループの皆さん、生命科学教育支援ネットワークの皆さん、分生研の若手の皆さん、とりわけ事務を一手に担当していただいた分生研所長秘書の伊藤美香さんに感謝いたします。

プログラム

10:00～10:10 開会挨拶 小宮山 宏 総長

<座長 斎藤春雄（医科学研究所）>

10:10～10:30

「Gタンパク質によるシグナル伝達の制御」

薬学系研究科 堅田利明

10:35～10:55

「細胞のスイッチとしてのカルシウム」

医学系研究科 飯野正光

11:00～11:20

「1細胞から生命システムを創る」

総合文化研究科 安田賢二

11:25～11:45

「タンパク質を探るマイクロ・ナノマシン」

生産技術研究所 竹内昌治

11:50～12:10

「ゲノム伝達のしくみ」

分子細胞生物学研究所 渡邊嘉典

12:15～13:30 休憩

<座長 山本正幸（理学系研究科）>

13:30～13:50

「昆虫の脳にひそむ知のしくみ」

情報理工学系研究科 神崎亮平

13:55～14:15

「動物はなぜ旅をするのか」

海洋研究所 塚本勝巳

14:20～14:40

「微生物による窒素循環と地球環境」

農学生命科学研究科 祥雲弘文

14:45～15:05

「湖沼における溶存有機物の動態と細菌群集の応答」

工学系研究科 古米弘明

15:10～15:30 休憩

<座長 入村達郎（薬学系研究科）>

15:30～15:50

「システムの理解に向けた生物知識の統合化」

新領域創成科学研究科 高木利久

15:55～16:15

「ミツバチの社会性行動を規定する脳と遺伝子の仕組み」

理学系研究科 久保健雄

16:20～16:40

「ヒトゲノム機能情報の解明：ゲノムからエピゲノムへ」

先端科学技術研究センター 油谷浩幸

16:45～17:05

「エマージングウイルスの謎」

医科学研究所 河岡義裕

17:10～17:20 閉会挨拶

宮島 篤 分子細胞生物学研究所長



総括プロジェクト機構

学術統合化プロジェクト《ヒト》《地球》合同シンポジウムを開催

4月17日（月）13:30より、駒場キャンパス13号館1331教室において表題のシンポジウムを開催した。教養学部生から年配の方まで120名の参加者があり、活発な議論が交わされた。学術統合化プロジェクトは、小宮山宏総長の主導により発足したもので、第一弾として《ヒト》、第二弾として《地球》が始動している。

シンポジウムは、矢野正晴教授の司会により進められた。最初に小宮山総長が、全体のねらいについて講演を行った。大学は、各構成員が信じる研究、教育を行う自律分散系である。学問が複雑化・細分化するのは、その性質上必然であるが、学問を発展させ、高齢化社会、環境問題などの社会の要請に応えるために、知識を体系化する責任がある。大学に協調のしかけを作り、自律分散協調系を実現することを目指し、学術統合化プロジェクトを実施していると語った。



シンポジウム会場の様子

前半は、学術統合化プロジェクト（ヒト）に関する講演が行われた。リーダーの高木利久教授は、生命科学分野で生成される情報を統合する技術を開発し、その成果を生命科学の教育に活かし、新分野の開拓、人材育成、人的ネットワークの構築に貢献することを目指している。メンバーの大武美保子講師は、神経科学の分野で蓄積されている知識をシミュレータに統合するために実施した、神経細胞モデルの網羅的解析について紹介した。ステイーブン・クレイネス助教授は、生命学者が自らの専門知識を効果的に共有するための、ウェブベース知識統合基盤を開発している。

休憩を挟んで後半は、学術統合化プロジェクト（地球）について講演があった。リーダーの住明正教授によると、地球の知識を語るときの重要なキーワードには数値モデルと観測データがあり、この2つの側面での地球をめぐる知識の統合化を目指しているという。中島映至教授は、大学にこそ高度複合系としての地球気候と環境のモデリ

ングの大きな未来があると述べた。小池俊雄教授は、中島教授の理学的アプローチと対比させながら、地球観測データを統融合する工学的アプローチを論じた。

最後に、新領域創成科学研究科の西田友是教授による招待講演では、地球を取り巻く雲や夕焼けなど自然物・自然現象のリアルなコンピュータ・グラフィクス画像と、それを生成するための技術が紹介された。

ニュートンの時代、学問は体系化された巨人のような存在であり、その肩に乗ることができた。現在、生成される知識が膨大となり、学問の全体像すなわち巨人の姿が見えにくくなった。学術統合化プロジェクトは、肩に乗ることができる巨人をつくるための取り組みと言える。



シンポジウム講演と質疑応答の様子：右上、小宮山総長；左上から右下に向かって、高木教授、大武講師、クレイネス助教授、住教授、中島教授、小池教授、西田教授

国際連携本部



小宮山総長、国連「持続可能な開発」委員会でスピーチ

4月末から約1週間、小宮山宏総長はアメリカを訪問、5月3日（水）には、ニューヨーク国連本部で開催中の「持続可能な開発」委員会（CSD）にパネリストとして出席し、「技術・社会改革の世紀」と題するスピーチを行った。このスピーチは、幸田チャーミン国連広報センター所長の提言により実現したものである。200名以上に上った各国代表は熱心に耳を傾け、会場からのコメントでも総長の提言を支持する意見があった。スピーチの要旨は以下の通りである。

将来のエネルギーおよび環境問題について考えるとき、我々は悲観的になり過ぎる傾向がある。その原因は、将来を展望するのに、「現在のパラダイム」をベースに

する、という過ちに起因している。

私はこれまで、エネルギー効率の大幅な改善と、再生可能エネルギー開発を根幹とした「Vision 2050」を提言してきた。この提言に対して、時に懐疑的な見方に会うが、それこそ、パラダイム・シフトの欠如の好例である。

実際、日本の企業が近年達成してきた自動車の燃料消費効率の大幅な改善や、火力発電所からの硫黄酸化物排出量の大幅削減成功の歴史を見れば、人類の将来を左右するような重要事項については、「実現すべきだ」との決意を持って当たることが重要であることが分かる。

バイオマスについても、原油価格の高騰の中では、エタノールは採算ラインに乗るし、化石燃料の使用を制限する法整備がなされれば、バイオマスをはじめとする、再生可能なエネルギーに乗り換えざるを得なくなることは言うまでもない。21世紀は「技術・社会改革の世紀」である。



スピーチをする小宮山総長

その後、総長はコフィ・A・アナン事務総長を表敬訪問し、5月18日（木）に予定されている「アナン国連事務総長名誉博士称号授与式並びに記念講演会（安田講堂）」への出席を公式に要請した。

なお、訪米期間中、総長はスタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校、イエール大学を訪問、ヘネシー、バージノー、レビンの各学長と面談を行い、バークレーでは講演も行った。また、ニューヨークでは、国連訪問の後、ニューヨーク銀杏会ならびに日本クラブ共催による会合に出席、約1時間にわたる講演を行った。



アナン国連事務総長との会談

© UN Photo #117551 by Mark Garten

部局 ニュース

総合文化研究科・教養学部

三鷹国際学生宿舎で新入居学生の
歓迎会行われる

4月8日(土)、三鷹国際学生宿舎共用棟において、宿舎内の自治組織である院生会(留学生の宿舎生活を支援する日本人大学院学生によるチューター組織)、宿舎生会(宿舎に居住する全学生を構成員とする組織)主催による新入居学生の歓迎会が、相互の協力の下、それぞれ昼と夜に行われた。

院生会主催の歓迎会は、院生会の活動目的を踏まえ主な対象を留学生としているが、当日は新入居留学生約40名をはじめ、大学院学生や有志の学部学生、既入居留学生など約80名が参加し、盛大な会となった。当初は最寄りの公園で桜を見ながらの野外バーベキューを予定していたものの天候に恵まれず、宿舎共用棟へ場所を移しての開催となった。留学生の国籍や年齢は様々であるが、既入居留学生や日本人学生とテーブルを囲んで一緒に調理をしながら、英語や日本語で互いに会話を楽しんでいた。天候が回復してからは、屋外で炭をおこしてバーベキューを行い、春の青空の下、炭火で焼いた野菜や肉などに舌鼓をうった。また、おにぎりや焼き芋といった日本的な食べ物も好評であった。

年度初めにおけるこのような会は、異国で单身生活を始める留学生たちにとって、大学での所属を超えた友人作りや宿舎で生活するにあたっての情報交換、大学院学生や日本人学部学生との交流等のきっかけとなる。多く

の留学生・学部学生が参加した本会は、彼らの大学と宿舎という公私両方における生活の基盤作りに少なからず寄与したものと思われる。



共用棟内での会食(院生会主催)



天候回復後のバーベキュー(院生会主催)

宿舎生会主催の歓迎会は、共用棟での全体パーティ及びその後各棟共有スペースでのオリエンテーションという二部構成で行われた。第一部には約150名の参加者があり、留学生も昼の院生会主催の歓迎会に引き続き多数参加していた。備品貸し出しのお知らせ、ごみ分別のお願い、災害対策の説明の後、本学クイズ研究会に所属している学生の協力を得てクイズ大会が行われ、大いに盛り上がった。第二部においても、宿舎生各々の居室のある棟の仲間との語らいが、夜遅くまで続いていた。



問題を読み上げるクイズ研究会所属学生(宿舎生会主催)



三択クイズに正解して喜ぶ参加者（宿舎学生会主催）

三鷹国際学生宿舎では約600人（うち日本人7割、留学生3割）の学生が生活しており、宿舎学生会、院学生会等の自治組織によってガイダンス、各種イベント等が企画・実行され、活発な国際交流の場となっている。

大学院理学系研究科・理学部

天皇后両陛下の本研究科附属植物園への行幸啓

天皇后両陛下は、4月10日（月）、大学院理学系研究科附属植物園を視察された。両陛下は、午前10時に植物園にご到着、小宮山宏総長、濱田純一理事・副学長、岩澤康裕研究科長、長田敏行植物園長、邑田仁教授らのお出迎えののち、本館前の植物園概略図の前で植物園の歴史と現況の説明を受けられた。続いて、邑田教授ご先導のもと園内を散策され、研究温室、大イチョウ、ツツジ園、青木昆陽の甘藷試作記念碑、小石川養生所の井戸をご覧になった。また、分類標本園・薬園保存園では、テンナンショウ類、ハチジョウキブシ、シロバナアケビ等をご覧になられた。続いて、本館園長室において、お出迎えの5名と懇談され、その席で、小宮山総長より4月10日は御成婚記念日であることから賀詞が述べられた。両陛下は、予定どおり11時30分に植物園を後にされた。



ご視察中の天皇后両陛下 ツツジ園において

医科学研究所

医科学研究所ーパスツール研究所合同国際シンポジウム「100年におよぶ感染症の恐怖との戦い」開催される

4月18日（火）医科学研究所講堂において、フランス・パスツール研究所との合同国際シンポジウムが開催された。本シンポジウムは、世界中が新興・再興感染症の脅威にさらされているこの時期に、共に100年以上の歴史を有する世界トップクラスの感染症研究拠点である医科学研究所とパスツール研究所の研究者が一堂に会し、両研究所の交流促進ひいては日仏両国間の研究協力の促進に貢献することを目的に開催され、学問的にも非常に有意義なものとなった。また、シンポジウム開催期間中には、両研究所による学術交流協定を締結するため、調印式を執り行った。



学術交流協定調印式

シンポジウムにおいては、両研究所の代表研究者による講演の他、昨年就任したパスツール研究所のAlice Dautry 新所長による特別講演も行われた。

また、翌日の4月19日（水）には、Brainstorming session等が行われ、世界を代表する研究者たちと、医科研の学生等との間で研究に関する意見の交換が盛んに行われ、若手研究者にとっても大いに刺激となった。



パスツール研究所代表研究者による講演

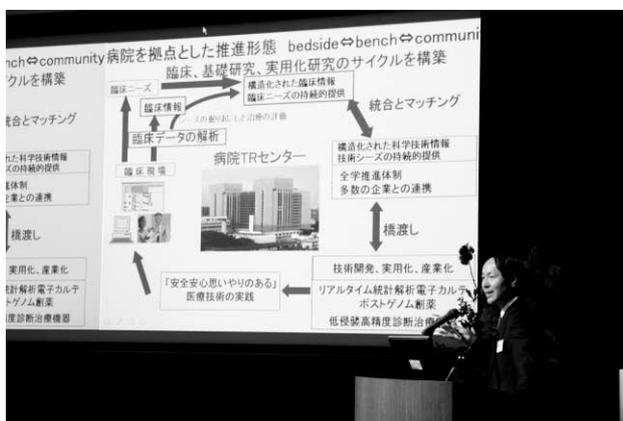
医学系研究科・医学部

部局

先端医療開発研究クラスターシンポジウム（第2回）ナノバイオ・インテグレーション研究拠点合同シンポジウムを開催

先端医療開発研究クラスター及びナノバイオ・インテグレーション研究拠点では、文部科学省、内閣府、厚生労働省及び経済産業省の後援を受けて、4月21日（金）15:00から工学部新2号館において先端医療開発研究クラスターシンポジウム（第2回）ナノバイオ・インテグレーション研究拠点合同シンポジウムが約400人の参加者を集めて開催された。

第2回目となるシンポジウムでは、先端医療開発研究クラスター、ナノバイオ・インテグレーション研究拠点などの各研究プロジェクトから、71ユニットが先端医療開発研究の状況について、ポスター展示及びプレゼンテーションにより優れた研究成果が紹介され、参加された大学や企業の研究者、報道関係者などと意見交換が行われた。



永井病院院長挨拶



展示会場の様子

講演会場では、竹本国夫病院広報企画部長の総合司会により、永井良三病院長から本シンポジウムにより大学、研究所及び産業界の方々との先端医療技術の共同研究開発が加速され、研究成果が社会に還元されることを期待しているとの開会の挨拶が述べられた。引き続き、小宮

山宏総長から「イノベーション創出のための大学の役割と社会との連携」について講演が行われた後、岸輝雄独立行政法人物質・材料研究機構理事長から「研究開発型独立行政法人におけるCOEの役割とネットワーク」について講演が行われた。引き続き、松田岩夫科学技術政策・食品安全・IT担当大臣から「科学技術創造立国に向けて」の講演が行われ、東京大学の優れた研究成果を積極的に社会へ情報発信を行うよう熱いエールをいただいた。最後に片岡一則東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点リーダーから閉会の挨拶が述べられ、参加者にさらなる開発研究への意欲と希望を抱かせた。



小宮山総長講演



松田大臣講演

宇宙線研究所

平成18年度宇宙線研究所一般講演会 を開催

部局

宇宙線研究所は、4月22日（土）柏市との共催によりアミューズ柏において約130名の参加者を得て一般講演会を開催した。本講演会は宇宙線研究所、物性研究所及び新領域創成科学研究科等の柏キャンパスへの移転に伴い地域との交流事業の一環として行われているものである。平成12年に移転を完了した宇宙線研究所及び物性研究所が毎年開催してきたもので、今回は7回目を迎えることになった。概ね、春に宇宙線研究所が秋に物性研究所が開催し、地域の方には恒例行事として親しまれている。



講演に先立ち展示ホールで説明を受ける参加者

今回は、「ニュートリノ」は面白い！をテーマとして1.「ニュートリノで地球内部が見えてきた」と題して東北大学大学院理学研究科ニュートリノ科学研究センター長 井上邦雄教授が、2.「準備が進む新しいニュートリノ実験への期待」と題して東京大学宇宙線研究所宇宙ニュートリノ観測情報融合センター長 梶田隆章教授が講演を行った。



講演の様子

井上教授は、一般的によく言われている「ニュートリノは何の役に立つんですか？」ということに対して、ニュートリノは役に立つという立場から、神岡のカムランド実験から地球内部ニュートリノ、原子炉ニュートリノを観測することで将来は地球内部にあるマントルの対流の解明に挑む計画を披露した。

また、梶田教授はニュートリノは直接役に立たないという立場から基礎物理の探求をもっと進め第3のニュートリノ振動の発見を得て次期研究計画（ハイパーカミオカンデ実験）に繋げる計画を披露した。

神岡地下実験室におけるニュートリノ研究の2つの実験（カムランド実験、スーパーカミオカンデ実験）に、一般の方々は一様に驚かれた様子で、将来計画は何時頃できるの？何処に計画しているの？外国との競合はあるの？と言った質問があり、講演終了後も熱心な方々の質問が続いていた。



熱心に質問をされる参加者

また、来年も開催致しますので、たくさんの方のご来場をお待ちしています。

新領域創成科学研究科

部局

生涯スポーツ健康科学研究センター 設立記念シンポジウムが開かれる

新領域創成科学研究科に属する「生涯スポーツ健康科学研究センター」は、高齢社会において重要な人々の健康を具現化するための研究および実践を遂行する機関として、柏Ⅱキャンパス内に昨年度開設された。

このセンターの設立記念式典および設立記念シンポジウムが、4月26日（水）に柏キャンパス総合研究棟で開催された。これは同時に、センターに附属して新設された「健康スポーツ科学寄附講座（味の素）」と「スポーツ・運動生体情報科学寄附講座（サトウスポーツプラザ）」の設立記念を兼ねたものであった。

晴天に恵まれ、269名もの聴講者（企業関係63名、自治体関係52名、大学関係30名、地域在住などの一般124名）が集まる盛大な会となった。記念式典、シンポジウムに先立って行われた柏Ⅱキャンパス公開にも、約70名の見学者が訪れた。

式典には、総長をはじめ文部科学省生涯スポーツ課長、柏市長、流山市長など多くの来賓が列席された。大学の知的ポテンシャルを利用した地域の活性化や少子高齢化に対応する健康社会の実現への期待の声が寄せられた。

シンポジウムの演題は8題であり、いずれの演者も新領域の教員を中心とした、センターの活動を支える人々であった。それぞれの専門分野から、健康の管理、維持・増進にかかわる研究成果をわかりやすく講演しており、今後、センターの研究・実践活動が、多方面からのアプローチにより拡充されていくことが予想される内容であった。



シンポジウムの様子

センターでは、柏地区教職員・学生の健康増進活動の一環として、月・水・金曜日の17:00～19:00（最終入館時間18:30）にトレーニングジムを開放しています。ぜひご利用ください。

キャンパス ニュース



大学院総合文化研究科・教養学部

キャンパス

駒場キャンパス ラグビー場を人工芝化

本学においては、現在、全キャンパスを通して教育・研究活動の環境整備を精力的に行っているが、総長室の企画の下、この度、教養学部からかねて要求されていた駒場キャンパスのラグビー場の人工芝化が実現された。工事は、平成18年1月中旬から開始され、3月31日に完工し、美しい桜が舞い散る4月より使用が可能となった。



桜満開の人工芝化された駒場ラグビー場



熱戦が繰り広げられた立教大学との定期戦

この人工芝化を記念する行事として、4月23日（日）に駒場キャンパス内ラグビー場において、人工芝グラウンドのグラウンド開き、その記念試合として本学運動会ラグビー部と立教大学ラグビー部との定期戦が行われ

た。試合は、残念ながら10対22で本学運動会ラグビー部が惜敗し、人工芝グラウンドでの緒戦を飾ることは出来なかったが、グラウンド開きに相応しい熱戦が繰り広げられた。

また、定期戦終了後に、こまばエミナースにおいて、定期戦のアフターマッチファンクションとともに、大学関係者、本学運動会ラグビー部関係者、立教大学ラグビー部関係者が参加し、人工芝化記念パーティが開催された。来賓としてご出席いただいた古田副学長より、積年の課題であったグラウンド砂の風塵対策の実施にも繋がる人工芝化であることを踏まえ、関係各位の努力に対する感謝のお言葉を頂いた。



祝辞を述べられる古田副学長



記念パーティの様子

駒場ラグビー場の利用に関しては、前期課程の授業時間帯以外の利用については、教養学部学生課課外活動係にお問い合わせください。

最後に、お昼休みの時間帯を一般開放時間とすることを予定していることを付記し、あらためて、関係各位に謝意を表します。

運動会ラグビー部 部長
青山和浩 (工学系研究科 助教授)

コミュニケーションセンターだより No.17

■ 10cm四方の小型衛星「CubeSat」展示スタート！

工学系研究科航空宇宙工学専攻中須賀研究室で研究が行われている小型衛星「CubeSat」の展示をスタートいたしました。

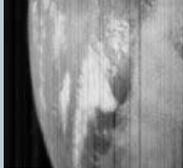
中須賀研究室では、2000年より超小型衛星プロジェクトに取り組んでいます。そして2003年6月、手作りの超小型衛星CubeSatを世界で初めて軌道上へ打ち上げることに成功しました。CubeSatは打ち上げてから2年以上にもわたって動作を続けており、当初の予想を大きく上回る成果を残しています。

その衛星と紹介映像を放映しておりますので是非一度ご覧ください。

■ 衛星からあなたの携帯電話に「地球」の写真が送られてくる!

この衛星が撮影した美しい地球の画像を多くの方々に楽しんでいただきたいという気持ちから、中須賀研究室では衛星で取得したデータ・画像をメールで提供するサービスを行っています。この配信サービスは、東大の衛星の名前「XI(サイ)」にちなんで「さいめーる」、さいめーるサービスを管理するサイトは「さいめーるステーション」と名づけられています。携帯電話やパソコンのメールに「地球」の写真がメールで送られてきますのでみなさんも一度登録してみてください。いかがでしょうか。また打ち上げのためのサポーター募集も行っています。どちらも下記URLをご覧ください。

<http://www.space.t.u-tokyo.ac.jp/ximail/top.html>

送信日時	4月10日	メールサンプル
中須賀研究室からのお知らせ		
XI-Vのキモチ	こんにちは！4月に入ってから昼間は暖かかったり、夜は寒かったりとそんな日が続くけど、みんなは元気かな？僕は元気に地球の周りを回っているよ。みんな体調には気をつけてね～	
XI-Vの健康状態	<ul style="list-style-type: none"> * 電池残量: 65.2% * 充電電流: 5.3mA * 発電量: 0.00W * 平均温度: -1.6度 	
取得画像		
画像情報	撮影時刻: 2006/01/21 0:32:51 撮影場所: アメリカ東海岸	

(担当: 渉外本部 曾我)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN: 月曜～土曜 10:30～18:30
電話: 03-5841-1039
<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>

ホッケー(フィールドホッケー)部

フィールドホッケーが今ひそかなブームを迎えつつあるのを、みなさんをご存知でしょうか。

ところでフィールドホッケーというのはどんな競技か。

それは簡単に言ってしまうと、人工芝のグラウンドでひとつのボールを各プレーヤーがスティックで扱いゴール数を競う、ヨーロッパおよびアジアの一部地域で主流のホッケーです。日本では長らくマイナースポーツでしたが、これを大学スポーツとしてはじめて取り入れた慶應義塾として創部80年を越えた我が部による功績、国際大会ではアテネオリンピックでの女子チームの活躍、あるいは故・高円宮さまをはじめとする皇室(学習院)でのホッケーブームなどにより、その知名度は着実にあがりつつあります。

さて東大ホッケー部通称BULLIONSは部員不足に苦しみながらも関東1部リーグに所属し、インカレでは東日本ベスト8に進出するなど他の推薦強豪チーム相手に奮闘しています。今後も1部リーグ定着そしてさらなる高みを目指す上で厳しい練習は欠かせませんが、チームが一丸となって白球を追い掛けた勝利のみを目的に戦う、このよるこびは何事にも代えられないものです。少しでも興味を持ってくださったらぜひ見学にお越し下さい。また一所懸命に取り組むプレーヤーの支えになってくださるマネージャーも大歓迎です。(ホッケー部 三浦 慧)



★★DATA★★

創立：大正11(1922)年
部員数：20名
練習場所：駒場地区第二グラウンド
練習日：火・水・木・土・日
年間予定：4月 春季リーグ(～6月)
6月 東商戦(春季)
8月 七大戦・東日本インカレ
9月 秋季リーグ戦
11月 インカレ・東商戦(秋季)・駒場祭
12月 オフ(～2月)
活動実績：2005年春季リーグ2部優勝・1部昇格
七大戦(オープン戦)優勝
東日本学生ホッケー選手権 ベスト8
2005年秋季リーグ1部7位・1部残留

部長：稲葉雅幸
(大学院工学系研究科教授・ホッケー部OB)
監督：須藤 毅 (ホッケー部OB)
HP：<http://www.todaihockey.com/>

バドミントン部

私達バドミントン部は週に3回駒場第二体育館で練習しています。東京大学の名を背負って戦う以上は常に結果が求められてくる事を一人一人が自覚し、目標を達成できるように常に厳しい練習に取り組んでいます。また部内の雰囲気もよく、部員相互でアドバイスをしたり、試合の際には部員全員で声を出して応援したりなどして非常に一体感があります。

そして部員各自が目標として定める試合は数多くありますが、最重要な試合が春秋に行われるリーグ戦です。現在男女共に5部で苦戦を強いられています、かつていた3部に戻れるよう部内の精鋭達が熱戦を繰り広げています。また3複6単で行われる夏の七大戦では全国の大学が集まって凄まじい盛り上がりで応援し、その光景は夏の風物詩とも言えます。また夏の京大との定期戦は5複10単で行われ、OBも多数駆けつけて両校のプライドが激突する最大規模の試合であります。また学内で開かれるシングルス・ダブルス両選手権では部員同士や歴代OBが激突し、東京大学ナンバーワンを目指してしのぎを削ります。

こうした数々の試合で常に勝利を目指して切磋琢磨しているのが我々バドミントン部です。興味を持たれた方は一度第二体育館まで足をお運びください。

(バドミントン部 岡山 健一郎)



★★DATA★★

創立：昭和25(1950)年
部員数：26名
練習場所：駒場地区第二体育館
練習日：月・水・金+自由練
年間予定：4月 リーグ戦
5月 国公立戦
6月 一橋戦 関東学生選手権
7月 合宿 京大戦
8月 七大戦
9月 リーグ戦
10月 シングルス選手権 理工戦
11月 一橋戦 新人戦 駒場祭
12月 ダブルス選手権
2月 東工戦
3月 一橋戦Jr.合宿
活動実績：七大戦 5位
リーグ戦(秋季)男子5部2位 女子4部6位
部長：遠藤泰生(大学院総合文化研究科教授)
監督：後藤拓也
HP：http://www.geocities.jp/tokyo_unbad/



絵画コンクールで教育学部附属中等教育学校の4名の生徒が入賞

「ぼくのわたしのふるさと絵画」コンクール（全国国立学校附属学校連盟、全国国立大学附属学校PTA連合会主催）で、教育学部附属中等教育学校の4名の生徒が会長賞とカンガルー賞を受賞した。会長賞には牧千春さん（3年生、現4年生）、川瀬優さん（5年生、現6年生）、カンガルー賞には小旗まつりさん（3年生、現4年生）、山梨優君（5年生、現6年生）がそれぞれ選ばれた。本校も学校園優秀賞を受賞した。

入賞した川瀬さんは「受賞できるとは思っていませんでしたので、とても驚きました」、山梨君は「絵を描いて受賞したのは初めてなので、とても嬉しい」と話している。



作品のレプリカを手にした受賞者たち

全国学芸科学コンクールで杉田晋一郎君が銀賞を受賞

第49回全国学芸科学コンクール（旺文社主催、内閣府・文部科学省後援）で教育学部附属中等教育学校の杉田晋一郎君（6年、現在大学生）が人文社会科学研究部門で銀賞を受賞した。また、清水麻奈さん、長谷川瞬君、池田遼右君、加藤真梨都さん（ともに6年、現在大学生）の4名も入選した。

上記の5名の生徒たちは、本校の5～6年生で取り組んでいる卒業研究でまとめた論文を応募したものである。（研究テーマは下記参照）生徒自身がテーマを選んで、自主的に進める研究であり、過去には2003年度の金賞（内閣総理大臣賞）をはじめ、銅賞以上4名、入選15名の生徒がおり、6年連続で受賞している。本校の教育の中でも最も高く評価されている教育活動の1つとなっている。

杉田晋一郎君「夏目漱石の小説に見る空の描写表現」

清水麻奈さん「子どもにできる国際協力」

長谷川瞬君「見てわかるカラスの秘密」

見てわからないカラスの秘密」

池田遼右君「炭」

加藤真梨都さん「視線の暴力」



受賞者の卒業研究の論文

附属中等教育学校新入生が本郷キャンパスを探検

4月21日（金）、教育学部附属中等教育学校の新1年生120名が本郷キャンパスを訪れ、恒例の「東京大学探検」を実施した。

この探検は、附属学校における総合学習の一環として、4年前から実施されている。東京大学とはどのような場所なのだろうか？という疑問を生徒の観点から調査するというプログラムで、4人1組のグループ活動を通して、研究テーマの決め方、フィールドワークや調査の仕方、まとめ方、そして発表の仕方などを学ぶ。

今回の探検では、クラス毎に総合研究博物館を訪れ、「アフリカの骨・縄文の骨」の展示を中心にじっくりと見学する時間を設けた。全体説明で諏訪元教授から直接お話を聞いた生徒たちは緊張した面もちであったが、その後フロアで大学院生らによる解説を聞き、たくさんの質問を投げかける生徒も見られた。生徒たちからは「本物の骨であると聞いてびっくりした。一度にあんなにたくさんの人骨をみたことが無かったのでドキドキした」「人骨からわかることが、こんなにたくさんあることに驚いた」などの感想が寄せられた。

今回の探検によるグループ別発表会は、5月25日（木）に附属学校にて開催される予定である。



総合研究博物館にて諏訪元教授のお話を聴く生徒たち

（教育学部附属中等教育学校）

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

医科学研究所

第33回医科研シンポジウムの開催について

医科学研究所では、来る6月1日(木)に医科研創立記念事業として伝染病研究所から医科学研究所への改組を記念して、創立記念シンポジウムを開催いたします。(参加費無料)

第33回医科学研究所創立記念シンポジウム
「再生医療と幹細胞」

日時：6月1日(木) 12:20～17:00

場所：医科学研究所 1号館講堂

プログラム

12:20～13:00

佐々学 名誉教授追悼講演 小島 莊明 名誉教授

13:00～13:10

開会の辞 山本 雅 所長

司会 北村 俊雄

13:10～13:50

1. 「網膜発生過程とその制御機構の解明をめざして」
渡邊 すみ子 客員教授
(医科学研究所 再生基礎医科学寄付研究部門)

13:50～14:30

2. 「造血幹細胞の自己複製と冬眠を制御する機構」
中内 啓光 教授 (医科学研究所 高次機能研究分野)

14:30～14:50 休憩

司会 吉田 進昭

14:50～15:30

3. 「核初期化による多能性幹細胞の樹立」

山中 伸弥 教授

(京都大学再生医科学研究所 再生誘導研究分野)

15:30～16:10

4. 「ES細胞研究を病気の治療へ」

西川 伸一 グループディレクター

(理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター幹細胞研究グループ)

16:10～16:50

5. 「血管内皮細胞の活性化のシステム生物学」

児玉 龍彦 教授

(先端科学技術センター 戦略的研究拠点計画「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」プロジェクトシステム生物学)

16:50～17:00

閉会の辞 清木 元治 総務系副所長

問い合わせ先： 医科学研究所総務課大学院事務室

電話： 03-5449-2045 (大学院事務室)

Eメール： gakumu@adm.ims.u-tokyo.ac.jp

シンポジウム・講演会

附属図書館

2006年日・EUフレンドシップウィーク 公開講演会のお知らせ

EU(欧州連合)では世界各地に情報提供のための資料センター(EDC)を置き、国内関係機関は毎年5月に日・EUフレンドシップウィークを行っています。

総合図書館国際資料室はEDCに指定されており、今年度は国内EDCセミナーが当館で行なわれることから、一般公開の標記の講演会も併せ行われます。

講師は駐ロシア欧州委員会代表部の広報部長等を歴任された方で、通商やビジネス関連の問題及び開発政策に関する知識も豊富な方です。最新のEUの動向や課題が話される予定ですのでぜひご来場ください。

「EU拡大の主な課題(Key challenges for EU enlargement: Lessons learnt from previous enlargement and prospects for future enlargement)」
(日本語通訳あり)

講師：駐日欧州委員会代表部広報部長

シルビア・コフラー(Silvia Kofler)氏

日時：平成18年6月2日(金) 13:30～15:30

場所：総合図書館3階大会議室
入場無料

また、総合図書館では、上記の日・EUフレンドシップウィークに合わせ、EUと東京大学との関わりについてお雇い外国人教師に焦点を当て展示を行います。本学の基礎を創るべく来日した彼らの多くはEU加盟国となった国々の人々でした。今回は、ミルン（独）、ベルツ（独）、コンドル（英）、チェンバレン（英）、ボアソナー（仏）、フルベッキ（蘭）等、計6カ国、11名の資料を展示します。

また、ポスター、冊子等により、最新EU情報も展示します。

ぜひ、総合図書館に足を運んでご覧下さい。

●総合図書館・常設展

「草創期の東京大学と欧州の教師たち」

期間：平成18年5月22日（月）～平成18年6月30日（金）

場所：総合図書館3階ロビー
入場無料



「コンドル博士遺作集」東京大学建物配置案

シンポジウム・講演会

大学院理学系研究科・理学部

第51回小石川植物園市民セミナーのご案内

小石川植物園後援会が主催する第51回小石川植物園市民セミナーが下記の通り開かれます。今回は、本学大学院理学系研究科の野崎久義助教による、ボルボックス目緑藻類の体制と進化に関する講演です。植物園の緑の中、最先端の植物科学研究に気軽に触れられる、絶好の機会です。本学関係者に限らず、どなたでも参加できます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいませ。

すよう、ご案内申し上げます。

講師：野崎久義（理学系研究科生物科学専攻助教）

演題：「単細胞クラミドモナスからボルボックスへ：群体と有性生殖の進化」

日時：6月10日（土）13:00～15:00

場所：理学系研究科附属植物園本園（小石川植物園）柴田記念館

参加費：無料

参加申込方法：

6月2日までに往復葉書にて後援会までお申し込み下さい。返信葉書が招待状となります。なお参加ご希望多数の際は、お申し込み順に従い受付が締め切られることがあります。悪しからずご了承下さい。

主催・参加申込先：

〒112-0001 文京区白山3-7-1

東京大学大学院理学系研究科附属植物園内
小石川植物園後援会

問い合わせ先：理学系研究科附属植物園

杉山宗隆助教（03-3814-0368）

シンポジウム・講演会

大学総合教育研究センター

マイクロソフト先進教育環境寄附研究部門 設立記念シンポジウムの開催のお知らせ ～大学総合教育研究センター設立10周年記念～

本学では、情報技術を活用した教育環境の革新と向上を目指す全学的取り組みとして、「教育環境のリデザインプロジェクト（TREE）」を展開しています。この推進のため、今春、大学総合教育研究センターにマイクロソフト先進教育環境寄附研究部門（MEET）が設置されました。

このシンポジウムでは、国内外の調査・先進的事例について皆さまと情報を共有し、今後の方向性を考えていきたいと思っております。多数のご来場をお待ちしております。

●日時 6月14日（水） 14:00～18:30

●場所 本郷キャンパス 弥生講堂・一条ホール

●参加費 無料

●お申込先 <http://utmeet.jp/events/index.html>

●主催 大学総合教育研究センター

●共催 マイクロソフト株式会社

プログラム

<挨拶>

大学理事・副学長 古田 元夫
大学総合教育研究センター長 岡本 和夫
マイクロソフト株式会社
代表執行役社長 Darren Huston

<趣旨説明>

大学総合教育研究センター 客員助教授 西森 年寿

<基調講演 I>

「日本の高等教育の情報化の現状と課題について」
独立行政法人メディア教育開発センター教授 吉田 文

<事例報告 I>

「映像コンテンツを活用するe-learningにおける効果的な運用方法」
株式会社ビジネス・ブレイクスルー取締役 伊藤 泰史

<基調講演 II>

「TabletPCによる教育実践の現状と未来」
ワシントン大学教授 Richard Anderson

<事例報告 II>

「TabletPCを利用した教育ソフトウェアと活用事例」
大学院情報理工学系研究科助教授 五十嵐 健夫

<総括>

大学院情報学環助教授 山内 祐平

<MEETの紹介>

大学総合教育研究センター客員助教授 望月 俊男

<APRU DLI 国際会議2006の紹介>

情報基盤センター教授 山口 和紀

<懇親会> 同会場 18:30～
(懇親会は参加費3,000円となっております)

お問合せ先:

マイクロソフト先進教育環境寄附研究部門
電話 03-5841-1727 FAX 03-5841-1729
e-mail sympo2006@utmeet.jp

お知らせ

お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

理学部 1号館に理学部年表等の展示が完成

昨年3月、小柴昌俊特別栄誉教授がノーベル物理学賞を受賞した研究成果の展示が、理学部1号館中央棟1階

に完成しましたが、今年3月、そのサイエンスギャラリーを拡張しました。

新しい展示は、理学系研究科の紹介と、明治草創期からの沿革および理学部が全学に先駆けて制定した「理学部憲章」です。また、このパネル展示の設置と同時に、ノーベル賞の賞状ケースを本格的なものに新調しました(賞状はレプリカ)。そして、この場所を訪れる方々に理学部ニュースや公開講演会のチラシ等を配布する目的で、マガジンラックも設置しました。

なお、ノーベル賞メダルはこれまで本物が展示されており、保安上、平日のみの公開でしたが、4月1日よりレプリカの展示となり、土日も公開されることになりました。この展示により学内外の方々に、より一層、理学部について知っていただけると期待しています。ぜひお立ち寄りください。



新しい展示と賞状ケース

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第493(5月10日)号の発行
——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第493(5月10日)号の内容は以下のとおりとなっておりますので、ぜひご覧ください。

能登路雅子：総合文化研究科・教養学部第二期運営諮問会議第一回会議報告

石光泰夫：江戸の語りから音楽へ「江戸の声——黒木文庫でみる音楽と演劇の世界——」

繁榊算男・星野崇宏：アメリカの大学の授業評価

<後期課程案内>

北川東子：超域文化科学科 文化価値の視点から「人間のありかた」に迫る

村田雄二郎：地域文化研究学科

万国津梁——地域文化研究の海へ

後藤則行：総合社会科学科

国際化と多様化の時代に生きる

小宮山進：基礎科学科 広く、深く

——科学の王道を歩む

松尾基之：広域科学科 自然界から人間社会に至るまで

池内昌彦：生命・認知科学科 21世紀の生命科学

<本郷各学部案内・1>

馬場康雄：法学部 法学部進学予定の皆さんへ

廣川信隆：医学部 医学部に進学するみなさんへ

影山和郎：工学部 工学部で何を学ぶのか

小松久男：文学部 人文学の豊かさと可能性

繁榎算男・石垣琢磨・丹野義彦・平石界：

学生相談所が3年連続でパワーアップしました

山崎信一：歴史教科書の問いかけるもの

菊地文雄・川合慧・大築立志・

下井守・加藤雄介・松田良一：理数系辞典案内

矢口祐人：〈本の棚〉石橋純著『太鼓歌に耳をかせ——
カリブの「黒人」運動とベネズエラ民主政治』
一同注目！

石垣琢磨：〈時に沿って〉学生相談所のスタッフとして

お知らせ

情報基盤センター

“情報探索ガイダンス” 各種コース 開催のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、“情報探索ガイダンス”として、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ各種のコースを実施します。

6月に開催するコース、スケジュールは下記のとおりです。東京大学にご所属であれば、学生・教職員を問わずどなたでも参加できます。お気軽にご参加ください。

●会場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー
(定員12名)

※6/19 Web of Science、BIOSIS Previewsは、会場が情報基盤センター(本郷キャンパス浅野地区)です。
(定員40名) ECCSのアカウントが必要です。

※6/30 AGRICOLAは会場が農学生命科学図書館です。
(定員20名)

●各コースの内容：

分野別データベースユーザトレーニング

各分野の主なデータベースについて、データベースの提供元から講師を招き、実習形式で行います。(日本語による講習です。)

「興味はあるがまだ使ったことがない」、「いつも使っているこのデータベースを効率的に使いたい」と感じている方は、ぜひご参加ください。

※このコースへの参加には予約が必要です。

先着順ですでお早めにお申し込みください。

下記のサイトから、事前にお申し込みください。

各データベースの紹介もあります。

<http://www.dlitc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

対象となるデータベースは下記のとおりです。

ご希望のデータベースを選んで参加できます。

【対象データベース】

◆総合分野

- ・JapanKnowledge (百科事典・辞書など)
- ・LexisNexis Academic (世界のニュース・企業情報など)
- ・MC-統計 (統計データ)

◆人文社会科学系分野

- ・Literature Resource Center with MLA (文学)
- ・InfoTrac Custom (人文社会科学全般)
- ・ASSIA・LLBA (応用社会科学・言語学)
- ・Business Source Elite (EBSCOhost) (経済学)
- ・PsycINFO・PsycARTICLES (心理学)
- ・Web of Science (人文社会科学全般)
- ・Lexis.com (法学)
- ・JSTOR (人文社会科学全般)
- ・eol ESPer (経済学、有価証券報告書)

◆自然科学系分野

- ・SciFinder Scholar (化学)
- ・Web of Science (自然科学全般)
- ・BIOSIS Previews (生命科学)
- ・AGRICOLA・ProQuest Agriculture Journals (農学)

Database User Training (English Session)

■Web of Science Course

6/20 (Tue.) 15:00~16:00

(No reservation is required.)

Apart from the usual keyword search functions, this database allows to find:

- cited materials
(articles cited by a particular article)
- citing materials
(articles citing a particular article)
- related materials

(other articles sharing a reference with a particular article)

Search results can be analyzed according to author name, author affiliation, field, and year of publication.

● 6月のスケジュール

月	火	水	木	金
5/29 15:00-16:30 Japan Knowledge	5/30	5/31	6/1 13:30-14:30 LRC 14:45-15:45 InfoTrac	6/2
6/5	6/6	6/7 15:00-16:30 ASSIA ・LLBA	6/8	6/9
6/12 13:15-14:45 Business Source Elite (EBSCOhost) 15:00-16:30 PsyncINFO・ PsyncARTICLES	6/13	6/14	6/15	6/16 14:45-16:15 SciFinder Scholar
6/19 10:30-12:00 Web of Science (人文社会系) 13:15-14:45 Web of Science (自然科学系) 15:00-16:30 BIOSIS Previews	6/20 English Session 15:00-16:00 Web of Science	6/21	6/22	6/23 13:30-14:30 LexisNexis Academic 14:45-16:15 Lexis.com
6/26 15:00-16:00 JSTOR	6/27	6/28 15:00-16:30 MC-統計	6/29 15:30-16:30 eol ESPer	6/30 13:30-15:00 AGRICOLA ・ProQuest Agriculture Journals

詳細・お申し込みは、下記のサイトをご覧ください。
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

●問い合わせ先 学術情報リテラシー係 (22649)
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

学生部

初心者水泳講習会の開催

「今年こそは泳げるようになりたいけれど、スクールで習うには時間も無いし、お金もかかりそうだし・・・」
 そのように悩んでいる方はいらっしゃいませんか？

お任せください！本郷構内の御殿下記念館で短期集中式の水泳講習会が開催されます。講師は本学教職員からなる水泳同好会（日本水泳連盟公認指導員）です。初心者の方を対象に懇切丁寧に指導いたします。

講習会の日程等は下記のとおりとなっておりますので、夏休み前のこの時期に是非泳げるようトライしてみてください。

- 日時： 6月13日（火）、14日（水）、16日（金）
 20日（火）、21日（水）、23日（金）
 計6日間 各日とも18:00～19:30（1時間30分）
- 場所： 御殿下記念館プール
- 対象： 本学学生・教職員
 [初心者（全く泳げない）、初級者（息継ぎができない）に限ります]
- 定員： 20名（定員になり次第締め切ります）
- 受講料： 500円（6回分）
- 受付： 6月1日（木）9:30～
 御殿下記念館モール階 運動会受付
- 説明会： 6月9日（金）18:00～18:20
 御殿下記念館第一研修室
 （記念館入口の右隣）
- 講師： 東京大学水泳同好会
 （日本水泳連盟公認指導員）

問い合わせは、学生部学生課体育チーム
 （内線：22509～22511）まで



人事異動（教員）

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
		(退職)	
	中澤 正治	平成18年3月10日死亡	大学院工学系研究科教授
	廣井 脩	平成18年4月15日死亡	大学院情報学環教授
		(退職)	
18.3.31	大場 秀章	定年	総合研究博物館教授
18.3.31	田賀井篤平	定年	総合研究博物館教授
18.3.31	鈴木 良實	定年	環境安全研究センター助教授
18.3.31	高橋 和之	定年	大学院法学政治学研究科教授
18.3.31	上野 照剛	定年 (九州大学大学院工学研究院特任教授)	大学院医学系研究科教授
18.3.31	岡部 洋一	定年	大学院工学系研究科教授
18.3.31	菅野 幹宏	定年	大学院工学系研究科教授
18.3.31	坂本 功	定年	大学院工学系研究科教授
18.3.31	矢木 修身	定年	大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター教授
18.3.31	秋山 弘子	定年	大学院人文社会系研究科教授
18.3.31	宇田川 洋	定年	大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設教授
18.3.31	河野 元昭	定年	大学院人文社会系研究科教授
18.3.31	小島 孝之	定年	大学院人文社会系研究科教授
18.3.31	後藤 直	定年	大学院人文社会系研究科教授
18.3.31	櫻井万里子	定年	大学院人文社会系研究科教授
18.3.31	佐藤 康邦	定年	大学院人文社会系研究科教授
18.3.31	田村 毅	定年	大学院人文社会系研究科教授
18.3.31	似田貝香門	定年	大学院人文社会系研究科教授
18.3.31	太田 俊明	定年	大学院理学系研究科教授
18.3.31	小林 昭子	定年	大学院理学系研究科附属スペクトル化学研究センター教授
18.3.31	小林 孝嘉	定年 (大阪大学招へい教授)	大学院理学系研究科教授
18.3.31	祖父江義明	定年	大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター教授
18.3.31	東江 昭夫	定年	大学院理学系研究科教授
18.3.31	山岸 皓彦	定年	大学院理学系研究科教授
18.3.31	小川 博之	定年	大学院農学生命科学研究科附属家畜病院教授
18.3.31	小野 拓邦	定年	大学院農学生命科学研究科教授
18.3.31	小林 洋司	定年	大学院農学生命科学研究科教授
18.3.31	土井 邦雄	定年	大学院農学生命科学研究科教授
18.3.31	東條 英昭	定年	大学院農学生命科学研究科教授
18.3.31	飯塚 堯介	定年	大学院農学生命科学研究科教授
18.3.31	八木 宏典	定年	大学院農学生命科学研究科教授
18.3.31	谷田貝光克	定年	大学院農学生命科学研究科教授
18.3.31	山口五十麿	定年	大学院農学生命科学研究科教授
18.3.31	伊藤 亞人	定年 (琉球大学教授)	大学院総合文化研究科教授
18.3.31	小林 寛道	定年	大学院総合文化研究科教授
18.3.31	小牧研一郎	定年 (大学入試センター研究開発部教授)	大学院総合文化研究科教授
18.3.31	義江 彰夫	定年	大学院総合文化研究科教授
18.3.31	熊谷 洋一	定年	大学院新領域創成科学研究科教授
18.3.31	辻 隆之	定年	大学院新領域創成科学研究科教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
18.3.31	渡邊 達三	定年	大学院新領域創成科学研究科教授
18.3.31	青山 友紀	定年	大学院情報理工学系研究科教授
18.3.31	岡部 靖憲	定年	大学院情報理工学系研究科教授
18.3.31	小柳 義夫	定年	大学院情報理工学系研究科教授
18.3.31	原 洋之介	定年	大学院情報学環教授
18.3.31	工藤 一嘉	定年	地震研究所助教授
18.3.31	田端 博邦	定年	社会科学研究所教授
18.3.31	今井 秀樹	定年	生産技術研究所教授
18.3.31	増沢 隆久	定年	生産技術研究所附属マイクロメカトロニクス国際研究センター教授
18.3.31	酒井 信彦	定年	史料編纂所教授
18.3.31	鶴尾 隆	定年	分子細胞生物学研究所教授
18.3.31	若井 晋	辞職	大学院医学系研究科教授
18.3.31	朝戸 裕貴	辞職	大学院医学系研究科助教授
18.3.31	浅野知一郎	辞職(広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授)	大学院医学系研究科助教授
18.3.31	大嶋 巖	辞職	大学院医学系研究科助教授
18.3.31	森田 明夫	辞職	大学院医学系研究科助教授
18.3.31	渡邊 聡明	辞職	大学院医学系研究科助教授
18.3.31	引地 史郎	辞職	大学院工学系研究科助教授
18.3.31	五味 文彦	辞職	大学院人文社会系研究科教授
18.3.31	寺澤 敏夫	辞職(東京工業大学大学院理工学研究科教授)	大学院理学系研究科教授
18.3.31	小田切徳美	辞職	大学院農学生命科学研究科助教授
18.3.31	西山 雅也	辞職(長崎大学農学部助教授)	大学院農学生命科学研究科助教授
18.3.31	深川由起子	辞職	大学院総合文化研究科教授
18.3.31	油井大三郎	辞職	大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター教授
18.3.31	安田 賢二	辞職(東京医科歯科大学学生体材料工学研究所教授)	大学院総合文化研究科助教授
18.3.31	小木曾啓示	辞職	大学院数理科学研究科助教授
18.3.31	岩橋 健定	辞職	大学院新領域創成科学研究科助教授
18.3.31	引地 進	辞職(経済産業技官(特許庁審査官))	大学院新領域創成科学研究科助教授
18.3.31	岩田 覚	辞職(京都大学数理解析研究所助教授)	大学院情報理工学系研究科助教授
18.3.31	黒橋 禎夫	辞職(京都大学大学院情報学系研究科教授)	大学院情報理工学系研究科助教授
18.3.31	新 誠一	辞職(電気通信大学教授)	大学院情報理工学系研究科助教授
18.3.31	松井 知己	辞職	大学院情報理工学系研究科助教授
18.3.31	花田 達朗	辞職	大学院情報学環教授
18.3.31	大久保敏之	辞職	医科学研究所附属病院助教授
18.3.31	土井 恵治	辞職(気象庁総務部企画課防災企画調整官)	地震研究所附属地震予知情報センター助教授
18.3.31	佐藤 朋彦	辞職(総務省統計局統計調査部消費統計課課長補佐)	社会科学研究所附属日本社会研究情報センター助教授
18.3.31	谷 泰弘	辞職	生産技術研究所教授
18.3.31	梅田 正明	辞職(奈良先端科学技術大学院大学教授)	分子細胞生物学研究所助教授
18.4.30	島田 正志	辞職(筑波大学大学院生命環境科学研究科教授)	大学院農学生命科学研究科助教授
18.4.30	徳山 英利	辞職(東北大学大学院薬学研究科教授)	大学院薬学系研究科助教授
18.4.30	北村 義浩	辞職(医科学研究所感染症研究拠点形成特任教員)	医科学研究所附属先端医療研究センター助教授
18.4.30	高木 智	辞職(国立国際医療センター研究所研究部長)	医科学研究所助教授
18.3.31	橋都 浩平	任期満了	大学院医学系研究科教授
18.3.31	有田 英子	任期満了	大学院医学系研究科助教授
18.3.31	篠原 修	任期満了(政策研究大学院大学教授)	大学院工学系研究科教授
18.3.31	渡部 洋	任期満了(東京大学大学院教育学研究科客員教授)	大学院教育学研究科教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
18.3.31	TIMUR DADABAEV	任期満了	東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター助教授
(採 用)			
18.3.27	前田 幸男	社会科学研究所附属日本社会研究情報センター助教授	
18.4.1	石川 徹	空間情報科学研究センター助教授	
18.4.1	蟻川 恒正	大学院法学政治学研究科教授	東北大学大学院法学研究科教授
18.4.1	川上 憲人	大学院医学系研究科教授	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
18.4.1	宮崎 徹	大学院医学系研究科附属疾患生命工学センター教授	
18.4.1	山田 芳嗣	大学院医学系研究科教授	
18.4.1	中村 元直	大学院医学系研究科助教授	
18.4.1	青木 則明	医学部助教授	
18.4.1	栗飯原周二	大学院工学系研究科教授	
18.4.1	羽藤 英二	大学院工学系研究科助教授	愛媛大学工学部助教授
18.4.1	求 幸年	大学院工学系研究科助教授	独立行政法人理化学研究所研究員
18.4.1	古井戸秀夫	大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター教授	
18.4.1	赤川 学	大学院人文社会系研究科助教授	信州大学人文学部助教授
18.4.1	秋山 聰	大学院人文社会系研究科助教授	東京学芸大学教育学部助教授
18.4.1	大稔 哲也	大学院人文社会系研究科助教授	九州大学大学院人文科学研究院助教授
18.4.1	熊木 俊朗	大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設助教授	
18.4.1	白波瀬佐和子	大学院人文社会系研究科助教授	筑波大学大学院システム情報工学研究科助教授
18.4.1	鈴木 泉	大学院人文社会系研究科助教授	神戸大学文学部助教授
18.4.1	橋場 弦	大学院人文社会系研究科助教授	大阪外国語大学外国語学部助教授
18.4.1	黒田 真也	大学院理学系研究科教授	大学院情報理工学系研究科科学技術振興特任教員
18.4.1	寺島 一郎	大学院理学系研究科教授	大阪大学大学院理学研究科教授
18.4.1	加藤 毅	大学院理学系研究科助教授	東北大学大学院理学研究科研究支援者
18.4.1	辻 勇人	大学院理学系研究科助教授	京都大学化学研究所附属元素科学国際研究センター助手
18.4.1	程 久美子	大学院理学系研究科助教授	大学院理学系研究科科学技術振興特任教員
18.4.1	濱口 幸一	大学院理学系研究科助教授	
18.4.1	大黒 俊哉	大学院農学生命科学研究科助教授	独立行政法人農業環境技術研究所生物環境安全部主任研究官
18.4.1	鎌田 直人	大学院農学生命科学研究科附属演習林助教授	金沢大学大学院自然科学研究科助教授
18.4.1	戸塚 護	大学院農学生命科学研究科助教授	大学院農学生命科学研究科寄付講座教員
18.4.1	GRANADOS QUIROZ ULIS	教養学部附属教養教育開発機構助教授	
18.4.1	金井 崇	大学院総合文化研究科助教授	独立行政法人理化学研究所ものづくり情報技術統合化研究プログラム研究員
18.4.1	菊川 芳夫	大学院総合文化研究科助教授	名古屋大学大学院理学研究科助教授
18.4.1	木村 忠正	大学院総合文化研究科助教授	
18.4.1	櫻井 英治	大学院総合文化研究科助教授	北海道大学大学院文学研究科助教授
18.4.1	高橋 英海	大学院総合文化研究科助教授	
18.4.1	月脚 達彦	大学院総合文化研究科助教授	東京外国語大学外国語学部助教授
18.4.1	野崎 大地	大学院教育学研究科助教授	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所運動機能系障害研究部神経筋機能障害研究室研究員
18.4.1	上條 肇	大学院新領域創成科学研究科助教授	特許庁特許審査第三部審査官
18.4.1	鎗目 雅	大学院新領域創成科学研究科助教授	科学技術政策研究所第2研究グループ主任研究官
18.4.1	米田 穰	大学院新領域創成科学研究科助教授	独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域主任研究員
18.4.1	浅見 徹	大学院情報理工学系研究科教授	
18.4.1	小西 敦	大学院公共政策学連携研究部教授	総務省行政評価局調査官
18.4.1	辻 宏道	地震研究所附属地震予知情報センター助教授	国土地理院企画部研究企画官
18.4.1	小寺 敦	東洋文化研究所助教授	
18.4.1	玄 大松	東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター助教授	

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
18.4.1	真鍋 祐子	東洋文化研究所助教授	
18.4.1	石井 和之	生産技術研究所助教授	東北大学大学院理学研究科助手
18.4.1	桑野 玲子	生産技術研究所助教授	独立行政法人土木研究所材料地盤研究グループ主任研究員
18.4.1	押川 正毅	物性研究所教授	東京工業大学大学院理工学研究科助教授
18.4.1	中辻 知	物性研究所助教授	京都大学大学院理学研究科講師
18.4.1	朴 進午	海洋研究所附属海洋科学国際共同研究センター助教授	独立行政法人海洋研究開発機構地球内部変動研究センター上級研究員
18.4.1	濱崎 恒二	海洋研究所助教授	広島大学大学院生物圏科学研究科講師
18.4.1	相馬 宣和	先端科学技術研究センター助教授 (出向)	独立行政法人産業技術総合研究所研究員
18.4.1	渡邊 克巳	先端科学技術研究センター助教授 (出向)	独立行政法人産業技術総合研究所研究員
18.5.1	根本 信乃	大学院医学系研究科附属疾患生命工学センター助教授	
(昇 任)			
18.4.1	諏訪 元	総合研究博物館教授	総合研究博物館助教授
18.4.1	中原 淳	大学総合教育研究センター助教授	大学総合教育研究センター講師
18.4.1	福嶋 敬宜	大学院医学系研究科助教授	大学院医学系研究科講師
18.4.1	大久保達也	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
18.4.1	平尾 雅彦	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
18.4.1	渡辺 紀徳	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
18.4.1	内村 太郎	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
18.4.1	木村 浩	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
18.4.1	酒井 克子	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
18.4.1	馬場 旬平	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
18.4.1	下田 正弘	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科助教授
18.4.1	横澤 一彦	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科助教授
18.4.1	大越 慎一	大学院理学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
18.4.1	須藤 靖	大学院理学系研究科教授	大学院理学系研究科助教授
18.4.1	佐々木治人	大学院農学生命科学研究科附属農場助教授	大学院農学生命科学研究科助手
18.4.1	伊藤 元己	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
18.4.1	岩本 通弥	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
18.4.1	中澤 恒子	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
18.4.1	三浦 篤	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
18.4.1	鳥居 徹	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院工学系研究科助教授
18.4.1	井上 優介	医科学研究所附属病院助教授	医科学研究所附属病院講師
18.4.1	中村 民雄	社会科学研究所教授	社会科学研究所助教授
18.4.1	川口 健一	生産技術研究所教授	生産技術研究所助教授
18.4.1	福谷 克之	生産技術研究所教授	生産技術研究所助教授
18.4.1	加藤 佳孝	生産技術研究所附属都市基盤安全工学国際研究センター助教授	生産技術研究所附属都市基盤安全工学国際研究センター講師
18.4.1	田島 公	史料編纂所教授	史料編纂所助教授
18.4.1	杉森 玲子	史料編纂所助教授	史料編纂所助手
18.4.1	松方 冬子	史料編纂所助教授	史料編纂所助手
18.4.1	瀬川 浩司	先端科学技術研究センター教授	大学院総合文化研究科助教授
18.4.16	金井 利之	大学院法学政治学研究科教授	大学院法学政治学研究科助教授
18.4.16	城山 英明	大学院法学政治学研究科教授	大学院法学政治学研究科助教授
18.5.1	元橋 一之	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
18.5.1	神保 泰彦	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院工学系研究科助教授
18.5.1	須貝 俊彦	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院新領域創成科学研究科助教授
18.5.1	福田 健二	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院新領域創成科学研究科助教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
(配置換)			
18.3.16	丹下 健	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科附属演習林教授
18.4.1	渡部 俊也	国際・産学共同研究センター教授	先端科学技術研究センター教授
18.4.1	中山 信弘	大学院法学政治学研究科附属ビジネスロー・比較法政研究センター教授	大学院法学政治学研究科附属ビジネスローセンター教授
18.4.1	宮廻 美明	大学院法学政治学研究科附属ビジネスロー・比較法政研究センター教授	大学院法学政治学研究科附属比較法政国際センター教授
18.4.1	荒川 忠一	大学院工学系研究科教授	大学院情報学環教授
18.4.1	今田 正俊	大学院工学系研究科教授	物性研究所教授
18.4.1	河野 通方	大学院工学系研究科教授	大学院新領域創成科学研究科教授
18.4.1	西郷 和彦	大学院工学系研究科教授	大学院新領域創成科学研究科教授
18.4.1	佐久間一郎	大学院工学系研究科教授	大学院新領域創成科学研究科教授
18.4.1	古米 弘明	大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター教授	大学院工学系研究科教授
18.4.1	一木 隆範	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科附属総合研究機構助教授
18.4.1	杉山 正和	大学院工学系研究科附属総合研究機構助教授	大学院工学系研究科助教授
18.4.1	橋本 毅彦	大学院総合文化研究科教授	大学院工学系研究科教授
18.4.1	恒吉 僚子	大学院教育学研究科助教授	大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター助教授
18.4.1	川幡 穂高	大学院新領域創成科学研究科教授	海洋研究所教授
18.4.1	白木原國雄	大学院新領域創成科学研究科教授	海洋研究所教授
18.4.1	芦 寿一郎	大学院新領域創成科学研究科助教授	海洋研究所助教授
18.4.1	木村 伸吾	大学院新領域創成科学研究科助教授	海洋研究所助教授
18.4.1	國吉 康夫	大学院情報理工学系研究科教授	大学院情報学環教授
18.4.1	辻井 潤一	大学院情報理工学系研究科教授	大学院情報学環教授
18.4.1	廣瀬 通孝	大学院情報理工学系研究科教授	先端科学技術研究センター教授
18.4.1	苗村 健	大学院情報理工学系研究科助教授	大学院情報学環助教授
18.4.1	森 武俊	大学院情報理工学系研究科助教授	大学院情報学環助教授
18.4.1	大島 まり	大学院情報学環教授	生産技術研究所教授
18.4.1	田中 明彦	大学院情報学環教授	東洋文化研究所教授
18.4.1	越塚 登	大学院情報学環助教授	情報基盤センター助教授
18.4.1	開 一夫	大学院情報学環助教授	大学院総合文化研究科助教授
18.4.1	前田 幸男	大学院情報学環助教授	社会科学研究所附属日本社会研究情報センター助教授
18.4.1	佐藤 香	社会科学研究所附属日本社会研究情報センター助教授	社会科学研究所助教授
18.4.1	本田 由紀	社会科学研究所助教授	大学院情報学環助教授
18.4.1	藤井 輝夫	生産技術研究所附属マイクロメカトロクス国際研究センター助教授	生産技術研究所附属海中工学研究センター助教授
18.4.1	金道 浩一	物性研究所附属国際超強磁場科学研究施設教授	物性研究所教授
18.4.1	嶽山正二郎	物性研究所附属国際超強磁場科学研究施設教授	物性研究所教授
18.4.1	油谷 浩幸	先端科学技術研究センター教授	国際・産学共同研究センター教授
18.4.1	神崎 亮平	先端科学技術研究センター教授	大学院情報理工学系研究科教授
18.5.1	近藤 寛	大学院理学系研究科附属スペクトル化学研究センター助教授	大学院理学系研究科助教授
(兼務免)			
18.4.1	高橋 進	総合研究博物館長	大学院法学政治学研究科教授
(兼務命)			
18.4.1	林 良博	総合研究博物館長	大学院農学生命科学研究科教授
18.4.1	坂野 仁	留学生センター長	大学院理学系研究科教授
18.4.1	上田 完次	人工物工学研究センター長	人工物工学研究センター教授
18.4.1	五十嵐泰夫	生物生産工学研究センター長	大学院農学生命科学研究科教授
18.4.1	岡本 和夫	大学総合教育研究センター長	大学院数理科学研究科教授
18.4.1	南谷 崇	駒場オープンラボラトリー長	先端科学技術研究センター教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
18.4.1	柴崎 亮介	空間情報科学研究センター長	空間情報科学研究センター教授
18.4.1	米澤 明憲	情報基盤センター長	大学院情報理工学系研究科教授
18.4.1	駒宮 幸男	素粒子物理国際研究センター長	大学院理学系研究科教授
18.4.1	浅田 邦博	大規模集積システム設計教育研究センター長	大規模集積システム設計教育研究センター教授
18.4.1	廣川 信隆	大学院医学系研究科長 医学部長	大学院医学系研究科教授
18.4.1	松本洋一郎	大学院工学系研究科長 工学部長 インテリジェント・モデリング・ラボラトリー長	大学院工学系研究科教授
18.4.1	金子 元久	大学院教育学研究科長 教育学部長	大学院教育学研究科教授
18.4.1	衛藤 隆	教育学部附属中等教育学校長	大学院教育学研究科教授
18.4.1	柴崎 正勝	大学院薬学系研究科長 薬学部長	大学院薬学系研究科教授
18.4.1	桂 利行	大学院数理科学研究科長	大学院数理科学研究科教授
18.4.1	武市 正人	大学院情報理工学系研究科長	大学院情報理工学系研究科教授
18.4.1	吉見 俊哉	大学院情報学環長 大学院学際情報学府長	大学院情報学環教授
18.4.1	森田 朗	大学院公共政策学連携研究部長 大学院公共政策学教育部長	大学院公共政策学連携研究部教授
18.4.1	岩本 愛吉	医科学研究所附属病院長	医科学研究所附属先端医療研究センター教授
18.4.1	関本 照夫	東洋文化研究所長	東洋文化研究所教授
18.4.1	前田 正史	生産技術研究所長	生産技術研究所附属サステナブル材料国際研究センター教授
18.4.1	鈴木洋一郎	宇宙線研究所長	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設教授
18.4.1	上田 和夫	物性研究所長	物性研究所教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。



ご意見・ご感想投稿大募集!

UTカフェは読者コメントを掲載するコーナーです。「学内広報」に掲載された記事に関するご意見・ご感想をはじめ、学内の様々な事柄に関して常々思っていることなどを、気軽にお寄せください。

投稿はEメールで受け付けます。メールの本文に以下の項目を記入し、下記アドレスまでお送りください。メールの件名は「意見」としてください。誌面への掲載はペンネーム・匿名が可能ですが、連絡用として投稿の際には氏名・所属をご記入ください。

<投稿先メールアドレス>

kouhou-ex@adm.u-tokyo.ac.jp

<記入項目>

- ①氏名・所属 ②連絡先電話番号
- ③本名・匿名・ペンネームの希望
- ④タイトル(20字以内) ⑤本文(300字以内)

「東大川柳」も同時募集

「UTカフェ」では、東京大学をテーマにした「東大川柳」も同時募集します。優秀作は不定期で「UTカフェ」に掲載します。川柳の投稿の際には、メールの件名を「川柳」とし、④に川柳をご記入ください(⑤はなし)。

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
CREP月例セミナー 日本企業の開発輸入契約 報告者:久田眞吾 (あさひ・狛法律事務所/弁護士)	5月23日 (火) 15:00~	社会科学研究所大会議室	社会科学研究所 CREP事務局 e-mail:crep@iss.u-tokyo.ac.jp
低温講習会 ※1335号参照	5月23日 (火) 15:00~	武田先端知ビル5階 武田ホール	※申し込み受付は5月19日まで 低温センター http://www.crc.u-tokyo.ac.jp/
植物医科学寄付講座設立記念シンポジウム 「植物医科学と環境保全型農業」 ※1335号参照	5月24日 (水) 13:30~	農学部弥生講堂	※参加申込事前登録制 生産・環境生物学専攻事務 TEL:03-5841-5040 FAX:03-5841-8168 e-mail:unemoto@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp http://www.a.u-tokyo.ac.jp/index.html
GIS講習会「基本コース」	5月25日 (木) 10:00~	柏キャンパス総合研究棟 4階470号室	募集人数:定員15名 (定員になり次第、締め切ります) 空間情報科学研究センター GIS講習会担当:古橋 e-mail:training@csis.u-tokyo.ac.jp
東文研定例会 「独島・竹島問題」の実像と虚像	5月25日 (木) 14:00~	赤門総合研究棟 地下1階第2演習室	東洋文化研究所 研究企画委員会 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
免疫学 特別講演会	5月30日 (火) 16:30~	医学系研究科教育研究棟 (新棟) 14階 鉄門記念講堂	大学院医学系研究科 免疫学講座 TEL:03-5841-3373
布施学術基金公開講演会 (第14回) イスラームとは何か —その多様性を考える—	5月31日 (水) 16:00~	法文2号館 1番大教室	大学院人文社会系研究科・文学部布施学術基金運営委員会 TEL:03-5841-3703 担当:成井
第33回医科学研究所創立記念シンポジウム 「再生医療と幹細胞」	6月1日 (木) 12:20~	医科学研究所 1号館講堂	医科学研究所総務課大学院事務室 TEL:03-5449-2045 (大学院事務室) e-mail:gakumu@adm.ims.u-tokyo.ac.jp
教養学部基礎科学科・生命・認知科学科 研究室公開・公開シンポジウム ※19ページ参照	6月2日 (金) 12:00 ~ (シンポジウム は14:00~)	駒場Iキャンパス15・16号館 他 (シンポジウムは16号館 119/129号室)	教養学部基礎科学科・生命・認知科学科 企画広報委員会 担当:酒井邦嘉 (内 46261) e-mail:kuni@mind.c.u-tokyo.ac.jp
2006年 日・EUフレンドシップウィーク公開講演会 ※19ページ参照	6月2日 (金) 13:30~	総合図書館3階 大会議室	附属図書館 http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/
教養学部第2回室内楽演奏会 J・S・バッハ6つの無伴奏チェロ組曲より 演奏 鈴木秀美 ※1335号参照	6月8日 (木) 18:30 ~ (18:00開場)	教養学部900番教室	大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 http://organ.c.u-tokyo.ac.jp
第51回小石川植物園市民セミナー 「単細胞クラミドモナスからボルボックスへ: 群体と有性生殖の進化」 ※20ページ参照	6月10日 (土) 13:00~	小石川植物園 柴田記念館	※6月2日までに往復葉書にて後援会に申し込み。 参加申込先:〒112-0001 文京区白山3-7-1 東京大学大学院理学系研究科附属植物園内小石川植物園 後援会 担当:杉山宗隆助教授 (03-3814-0368)
大学総合教育研究センター マイクロソフト先進教育環境寄附研究部門 設立記念シンポジウム ※20ページ参照	6月14日 (水) 14:00~	弥生講堂・一条ホール	マイクロソフト先進教育環境寄附研究部門 TEL:03-5841-1727 FAX:03-5841-1729 e-mail:sympo2006@utmeet.jp
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
総合博物館常設展 「アフリカの骨、縄文の骨—遙かラミダスを望む」展	4月18日 (火) ~6月9日 (金)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp/
総合研究博物館小石川分館 驚異の部屋—The Chambers of Curiosities	3月9日 (木) ~	総合研究博物館小石川分館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp/annex/
情報探索ガイダンス ※22ページ参照	5月12日 (金)、18日 (木)、22日 (月)、24 日 (水)、29日 (月)	総合図書館1階 講習会コーナー	※先着順12名、予約不要 情報基盤センター学術情報リテラシー係 e-mail:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html
ベルナルド・フォール教授セミナー並びに講演	5月16日 18:00~ 5月22日 13:00~ 5月29日 18:00~	駒場キャンパス18号館4階 コラボレーションルーム1	21世紀COE「共生のための国際哲学交流センター」 (UTCP) e-mail:secretary@utpc.c.u-tokyo.ac.jp
第33回生研イブニングセミナー 「情報エレクトロニクスの基礎と応用」	4月14日 (金) ~6 月30日 (金) 18:00 ~ (5月5日、5月26 日、6月2日を除く 各金曜日)	生産技術研究所 総合研究実験棟 (An棟)	生産技術研究所 総務課広報企画係 TEL:03 (5452) 6017~8 FAX 03 (5452) 6073 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
18年度 生研公開	6月1日 (木) 13:00~ 2日 (金) 10:00~ 3日 (土) 10:00~	生産技術研究所	生産技術研究所 総務課広報企画係 TEL:03 (5452) 6017~8 FAX 03 (5452) 6073 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
実験動物飼育管理セミナー2006	5月24日 (水)、5月31 日 (水)、6月2日 (金)、 6月7日 (水) 15:00~	医学部1号館3階 S311号室 (講義室)	医学系研究科疾患生命工学センター 健康・環境医学部 担当:掛山正心 TEL:03-5841-1415 内線21415
高校生のための金曜特別講座 (夏学期)	4月14日 (金) ~7月7日 (金)	教養学部 11号館 2階1106教室	http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/index.html
法学部連続講演会「高齢化社会と法」 ※1334号参照	5月13日 (土) 6月17日 (土) 7月15日 (土)	法学政治学系総合教育棟101教 室 (通称:法科大学院ガラス棟)	e-mail:icclpblo@j.u-tokyo.ac.jp FAX:03-5805-7143

Contents

特別記事

- 02 知っていますか? 「衛生委員会の活動」
- 04 「6月、物の買い方が変わります」－UT購買サイト・オープン!

NEWS

一般ニュース

- 06 「バリアフリー支援室本郷支所」を開設
- 07 施設部保全課に環境整備チームが設置される
- 08 東京大学の生命科学シンポジウム開催される
- 09 学術統合化プロジェクト《ヒト》《地球》合同シンポジウムを開催
- 10 小宮山総長、国連「持続可能な開発」委員会でスピーチ

部局ニュース

- 11 三鷹国際学生宿舎で新入居学生の歓迎会行われる
- 12 天皇皇后両陛下の本研究科附属植物園への行幸啓
- 12 医科学研究所－パスツール研究所合同国際シンポジウム「100年におよぶ感染症の恐怖との戦い」開催される
- 13 先端医療開発研究クラスターシンポジウム(第2回) ナノバイオ・インテグレーション研究拠点合同シンポジウムを開催
- 14 平成18年度宇宙線研究所一般講演会を開催
- 15 生涯スポーツ健康科学研究センター設立記念シンポジウムが開かれる

キャンパスニュース

- 15 駒場キャンパス ラグビー場を人工芝化

◆ 表紙写真 ◆

人工芝化された駒場キャンパスラグビー場
(15ページに関連記事)

コラム

- 16 コミュニケーションセンターだより No.17
- 17 Flags運動部紹介 No.14
- 18 噴水 絵画コンクールで教育学部附属中等教育学校の4名の生徒が入賞
- 噴水 全国学芸科学コンクールで杉田晋一朗君が銀賞を受賞
- 噴水 附属中等教育学校新入生が本郷キャンパスを探検

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 19 第33回医科研シンポジウムの開催について
- 19 2006年日・EUフレンドシップウィーク公開講演会のお知らせ
- 20 第51回小石川植物園市民セミナーのご案内
- 20 マイクロソフト先進教育環境寄附研究部門設立記念シンポジウムの開催のお知らせ～大学総合教育研究センター設立10周年記念～

お知らせ

- 21 理学部1号館に理学部年表等の展示が完成
- 21 「教養学部報」第493(5月10日)号の発行－教員による、学生のための学内新聞－
- 22 “情報探索ガイダンス”各種コース開催のお知らせ
- 23 初心者水泳講習会の開催

事務連絡

- 24 人事異動(教員)

30 EVENT LIST

淡青評論

- 32 日本の風土として地震を理解する

編集後記

学内広報の記事はこれまで、記事の種類を分類した後は、基本的には部局や担当部署ごとに並べて掲載してきました。ところが最近、複数の組織の協力の下行われる行事が目立つようになり、分類に困ることが多くなりました。そこで今号から、記事を分類した後はその行事が行われた(行われる)日付順に掲載することにしました。多様な人々が協力・交流して、より豊かな大学、より豊かな社会を目指す。そのために学内広報がお役に立てればと思います。(と)



七徳堂鬼瓦

日本の風土として地震を理解する

「日本は世界の中でも有数の地震国」というフレーズはすでに手垢にまみれていて、今更そんなことはわかっていると言われそうだが、ともかく日本では地震が多い。日本に長く暮らしていれば実際に地震による揺れを経験したり、ニュースで地震被害を目の当たりにしたりと、地震は日常の出来事である。また、そのような土地柄であるがゆえに、時間数がどんどん削られているとはいえ、小中学校で地震について学習することになっている。日本国民は地震に対するある程度の“慣れ”があり、多少の揺れには動じることはない。

他方、外交官、就労・観光・留学のため日本に滞在する外国人の多くは、地震に対する体験や知識もなく、日本に来て初めて地震に遭遇するところとなり、少しの揺れでも脅威に感じるようである。日本語でのコミュニケーション能力が十分でない人は地震や地震防災について学ぶ機会も参考となるような資料も簡単には見つけられず、地震に怯える日々を暮らしているのではなかろうか？（学内広報No.1326 P13参照）

地震への慣れ・不慣れにかかわらず、地震とは何かを正しく理解することが肝要である。いまだに「〇月×日ころに地震が来ると聞いたが本当か？」というような質問を受けることがあり、地震に“慣れ”ているはずの日本人ですらまだまだ理解が十分でないように感じる。地震の発生のしくみや揺れの増幅のしくみなどは“理系”分野として取り扱われ、大多数の国民からは近寄りがたいもの、あるいはブラックボックスと解されている。しかし、日本では体を感じる地震だけでも年間1000～2000回あるということを考えると、地震は四季の移ろいと同様に、また、暴風雨、洪水、豪雪のように、日本で暮らしていく上で不可避の、従って否が応でも共棲を余儀なくされる対象である。地震は災厄をもたらす得体の知れない不気味なもの、と拒絶するのではなく、日本独特の風土あるいは文化のひとつとして受け入れるべきもので、純粋な“理系”ではなくむしろ“文系”に近いものと考えたほうがいいのではないだろうか。

土井恵治（前・地震研究所助教授 現・気象庁総務部企画課防災企画調整官）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1336 2006年5月17日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>